

外 国 語 学 部

(1995～1999年度に
入学した学生に適用)

英 米 科

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31301 31321	英米演習 I 1・II 1	必	春学期 秋学期	各2	3	有元 將剛	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 言語研究の諸相

【講義内容】 英語と日本語は（あるいはどの言語も）お互いに無限に異なっているのではなく、英語も日本語も（あるいはどの言語も）人間言語の1つとして人間言語として共通な部分（普遍文法に属する部分）を持っている。本演習では英語と日本語およびその他の言語を手がかりに人間言語の普遍性を探り、また、英語、日本語（あるいは他の言語）はどの点で異なっているか考える。各言語の一見複雑に見える現象の底に潜む、一般性、規則性を明らかにする。第一言語、第二言語獲得、失語症、言語の歴史などにも触れる。

【講義計画】 受講者の口頭発表、討論を中心に進める。適宜、レポートを課す。

【評価方法】 レポート、試験、授業への貢献度などを含め、総合的に判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31303 31323	英米演習 I 2・II 2	必	春学期 秋学期	各2	3	橋本 恵	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 英米の小説

【講義内容】 「二十一世紀の最初の年に、二十世紀を回顧することによって、新しい世紀への展望をもとう。」この基本姿勢をもって、二十世紀の英米小説の代表的作品を読む。テキストとして、*Time*が選んだ「二十世紀の最も影響力のある作家」の一人であるヴァージニア・ウルフの作品を取り上げる。

【講義計画】 まず第一に、文学作品を文化と関連させて読む。このために歴史的・社会的・文化的背景を学ぶ。次に、作品分析の方法の取得をめざす。ここでは、小説一般についての分析方法、ならびにウルフの作品の読解に最も有効だと思われる分析方法を学ぶ。
ゼミの進め方は、テキストである小説および資料について担当のグループが報告し、それに基づいて、ゼミ全体の討論を行い、さらにまとめとして担当教員が講義をするという形式をとる。

【評価方法】 レポートと授業への貢献度によって評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31304 31324	英米演習 I 3・II 3	必	春学期 秋学期	各2	3	WORDELL Charles	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 Women in American Literature

【講義内容】 This course will examine literature written by American women in the 19th and 20th centuries. We will also look at the various roles that women take and have taken in American society. We will study the many forces that have shaped American women: class, race, ethnicity, age, religion, family, love, and work. Special attention will be given to the writing of African Americans, Asian Americans, Native Americans, and other minorities.

In the first year, we will read and discuss twenty short stories, several poems, and two novels written by

women. We will also study how to recognize the society that is described in literature.

In the second year, students will develop skills in reading so that they can read novels and stories quickly. In this part of the course, they will read more than thirty pages a week. At the same time, they will be choosing a topic for the graduation essay. The last term (September to December) will be spent working on that essay.

【講義計画】 First Term: Class 1: Introduction; 2: Anne Bradstreet and Phyllis Wheatley; 3: Harriet Beecher Stowe; 4: Sarah Orne Jewett; 5: Mary Wilkins Freeman; 6: Kate Chopin; 7: Willa Cather; 8: Edith Wharton; 9: Shirley Jackson; 10: Carson McCullers; 11: Flannery O'Connor; 12: Katherine Anne Porter; 13: Kate Chopin's novel, *The Awakening*.

Second Term: Class 1: Joyce Carol Oates; 2: Zora Neale Hurston; 3: Toni Morrison; 4: Alice Walker; 5: Maya Angelou; 6: Jamaica Kincaid; 7: Hisaye Yamamoto; 8: Maxine Hong Kingston; 9: Amy Tan; 10: Bobbie Ann Mason; 11: Leslie Silko; 12: Louise Erdrich; 13: Alice Walker's novel, *The Color Purple*.

【評価方法】 There will be short quizzes on the lectures. Each term, students will write a final report of about 2,000 words on the novel we read. Grades will be based on weekly readings and participation (50%), quizzes (25%), and report (25%).

【テキスト】 I will try to prepare offprints for most of the stories. However, you will buy Kate Chopin's book, *The Awakening*; and Alice Walker's book, *The Color Purple*.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31305 31325	英米演習Ⅰ 4・Ⅱ 4	必	春学期 秋学期	各2	3	近藤 祐一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 文化とコミュニケーション

【講義内容】 演習Ⅰでは、コミュニケーションを比較文化的視点から主に文献と実習から考察します。この場合、日米が比較の中心となりますが、必要によっては従来の二文化比較から抜け出すために、アジアの文化も考えていく予定です。

演習Ⅱでは外国人留学生別科との合同授業により、演習Ⅰで学んだ「理論的枠組み」がどう実際の場で作用するかを学習します。3年次では、他に「社会科学」と呼ばれる方法論や、コンピューターを使用した統計処理の方法の初歩を少しエキストラになります学習します。

この演習に登録する学生は「異文化とコミュニケーション」「政治とコミュニケーション」「人間関係とコミュニケーション」「コミュニケーション特殊講義」を履修すること。また、「基礎英語通訳法」、「上級英語通訳法」、「英語スピーチ法」を履修することが望ましい。

【講義計画】 演習Ⅰ
異文化コミュニケーションをどう学ぶか
基本的な社会科学のモデルを学ぶ
「社会科学的」とよばれる調査法を学ぶ
統計の初歩を学ぶ
異文化の見方・異文化コミュニケーションの基礎的な理論
他のコミュニケーション関連科目の授業と併せて理論を学ぶ

演習Ⅱ
外国人留学生別科との合同授業（予定）
毎週決められたトピック（教育、家族、差別、性、豊かさ、南北問題等）について討議を行う
合同授業の最後には振り返りの討論を行う

【評価方法】 演習Ⅰでは課題及び期末考査により評価、演習Ⅱでは討議への参加、毎週課されるジャーナル提出、期末レポートにより評価する。

【テキスト】 Condon & Yousef. (1975) *An Introduction to Intercultural Communication*. Bobbs-Merril: Indianapolis.
Samover & Porter. (1997) *Intercultural Communication: A Reader* (8th ed.). Wadsworth: Belmont, CA.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31306 31326	英米演習 I 5・II 5	必	春学期 秋学期	各2	3	岡部 朗一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 英語コミュニケーションにおける異文化レトリックの構図

【講義内容】 英語コミュニケーションにおいて特に重要な概念である説得（レトリック）の問題に焦点をあてて、アメリカ人の生活に深く根ざしたテレビで伝えられたり、新聞、雑誌に掲載されるさまざまな宣伝コマーシャル（例えばアメリカの商品コマーシャル、企業の意見広告、大統領選挙での政治テレビコマーシャル）、あるいは政治説得形式を代表する現代アメリカ政治スピーチ等に見られる説得レトリックの構図を、コミュニケーションの送り手、受け手、英語メッセージの側面から研究する。分析をする際には、文化背景が異なるアメリカと日本におけるコマーシャルの機能、説得形式に見られる類似点と相違点に留意しながら、異文化の視座から批評を行います。クラスでは、活字メディアのみならず、ビデオ・映像メディアも研究対象として広く導入する。

【講義計画】 演習Ⅰ、Ⅱでは、アメリカの説得コミュニケーションを扱った教科書とプリントの講読を通して、コミュニケーションとしての英語コマーシャルにおける説得の概念を理論的に理解する。理論面の学習とともに、実際のコマーシャルを分析した結果を報告するグループ発表も回数多く行う。夏休み期間に2泊3日の予定で行なう夏合宿では、さらにプリントを講読したり、コマーシャルを分析したグループ発表を行う。研究対象は、英語と日本語の新聞・雑誌、テレビの商品コマーシャル、企業の意見広告、アメリカの大統領選挙テレビコマーシャル、現代アメリカ政治スピーチ等を予定している。

【評価方法】 演習Ⅰと演習Ⅱで1回ずつ課せられる各10枚の英語でのresearch paper、クラスでの口頭発表、それに定期試験の結果を考慮して、総合的に判定する。

【テキスト】 Gary C. Woodward and Robert E. Denton, Jr., *Persuasion and Influence in American Life*, 4th ed. (Waveland Press, 2000).

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31307 31327	英米演習 I 6・II 6	必	春学期 秋学期	各2	3	高井 次郎	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 対人コミュニケーション能力

【講義内容】 対人コミュニケーション能力（interpersonal competence）についての講読およびグループ研究を実施する。対人コミュニケーション能力とは、対人関係を円滑に運ぶための送信者および受信者としてのスキルであり、個人が相手に伝えようとしていることを適切な表現法で、正確に相手に伝える能力と、相手から受けるメッセージを正しく理解する能力を意味する。また、対人コミュニケーションを研究するための研究手法についての実習を行う。

【講義計画】 演習Ⅰでは、対人コミュニケーション能力に関する国内外の文献の講読と、それらについての討論を展開する。同時に、社会科学的研究方法の基礎について検討する。演習Ⅱは実験実習とし、対人コミュニケーション能力のみならず、参加者の興味のあるコミュニケーション事象に対してグループでの研究を実施し、研究報告書の作成や研究発表の実習を行う。

【評価方法】 期末レポート、研究報告、口頭発表、出席状況などを総合して判定する。

【テキスト】 鎌原雅彦著 『心理学マニュアル－質問紙法』 北大路書房 1998年
末永俊郎 「社会心理学研究入門」 東京大学出版 1986
その他プリント等

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31308 31328	英米演習Ⅰ 7・Ⅱ 7	必	春学期 秋学期	各2	3	松 永 隆	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 第2言語習得と英語教育

【講義内容】 このゼミでは、応用言語学の1つの大きな分野である第2言語習得をテーマとする。外国語・第2言語習得のプロセスはどのようなものであるか？ 母語の習得との違いはどこにあるか？ 習得に影響を及ぼす要因には何があるのか？ Successful learnersとUnsuccessful learnersにはどのような違いがあるのか？（学習方法、学習開始時期、学習スタイル、学習環境など）このような疑問を、特に英語の習得に関連する研究を中心に勉強しながら、いっしょに考えていこうと思う。

習得プロセスや習得状況の違いについて、心理言語学、社会言語学、神経言語学の3領域から提案されている理論の特徴と制約を比較、検討し、語学学習に対してどのような具体的な提案ができるかを考えたい。特に強調したいのはTOEFLなどのテストの結果にみられる表面的な習得結果ではなく、そこに至までに経ている学習・習得の過程（process）である。

【講義計画】（取り上げることになると思われる項目、具体的にはゼミ生と相談しながら進めます）

- * 中間言語研究（習得順序、母語の役割、など）
- * 言語の習得環境（インプットの重要性）
- * 第2言語学習者の個人差（年齢、個性、動機、認知スタイル、ストラテジーなど）
- * 第2言語の習得理論（UG理論、モニター仮説など）
- * 教室での外国語学習と言語習得（教授法・指導技術の習得への影響：習得順序、習得速度、習得レベル）
- * 第2言語習得研究方法論
- * 第2言語習得データ分析法
- * 学習ストラテジー
- * コミュニケーション・ストラテジー

【評価方法】 詳細はゼミ生と相談のうえで決定します。

【テキスト】（予定）

- 【その他】
- ・ 小池生夫（監修）、SLA研究会（編）『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』大修館 1994
 - ・ Brown, H.D. (1994). *Principles of language learning and teaching* (3rd ed.). Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice Hall.
 - ・ Lightbown, P.M., & Spada, N. (1999). *How languages are learned*. Oxford: Oxford U.Press.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31309 31329	英米演習Ⅰ 8・Ⅱ 8	必	春学期 秋学期	各2	3	藤 本 博	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 アメリカ合衆国とアジア・太平洋の国際関係

【講義内容】 本演習では、20世紀の中でも「バクス・アメリカーナ」（アメリカによる平和）の時代でもあった「冷戦」の時代を中心にアメリカが果たした役割について考えてみる。

「冷戦」の終焉は、「冷戦」の時代におけるアメリカによる世界秩序形成の側面と同時に、「冷戦」体制の変容・崩壊を促した力学の解明をわれわれに求めている。したがって、本演習では、1960年代以降における第二次大戦後の国際関係の変容（とくに「冷戦」体制の変容・崩壊過程）に着眼しながら、アメリカ外交の展開を跡づけることが課題となる。とくに、「冷戦体制」の変容に大きな役割を果たし、アメリカにとっても大きな衝撃となったベトナム戦争を中心に、第二次大戦後のアメリカ外交の展開とその特質を考察してみる。

「冷戦とは何であったか」・「何が冷戦の終焉をもたらしたのか」という問題意識のもとで、20世紀の国際関係の特徴への理解をもとに21世紀の国際関係の行方も展望できるよう、より広い歴史的文脈のなかでアメリカ外交を位置づけてみたい。

【講義計画】 春学期においては、演習テーマに関する基礎的学習として下記のテキストの他に、関係文献・資（史）料などに関する報告・討論を中心に行う。併せて、1999年に日本でもBS1で24回にわたって放映された「冷戦」に関する番組もいくつか検討素材にする予定である（アメリカではCNNで1998年に放映）。秋学期には、「名古屋国際関係合同ゼミナール」に参加するための報告準備を中心に行う。

【評価方法】 出席重視。随時、レポートを提出してもらう。演習への積極的姿勢が重要となる。

【テキスト】 第1回目の講義時に指定する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31310 31330	英米演習Ⅰ 9・Ⅱ 9	必	春学期 秋学期	各2	3	藤本 哲史	
他の科目との関連	「アメリカの社会1-1及び1-2」、「社会学研究の基礎（アメリカ）」の受講を勧める。					他学科履修	不可

【講義内容】 このゼミの大きな目的は、私たちの社会的生活がどのようにジェンダー化（性による分断や階層化）されているかを、社会学をものさしに考えることにある。社会生活の中の多種多様な問題点を取り上げるが、可能な限りゼミ受講生の興味関心を反映させたい。受講生に期待する事柄は以下の2点である：（1）ゼミで取り上げる問題を批判的に検討すること（critical thinking）、また自分自身の生活の中に潜むジェンダーの問題を発見、分析し、解決のための糸口を探ること、（2）リサーチ・ペーパーのテーマ選定、文献の検索やまとめ（秋学期には実際に文献レビューを開始する）や進行計画を早期に始めること。また、ゼミ受講生には英米選択科目「アメリカ社会1-1（春学期）、1-2（秋学期）」を履修することを勧める。また、社会的分析ツールに関する知識を深化させるために、外国語学部共通基礎科目「社会学研究の基礎（アメリカ）」の聴講を勧める。

春学期はトピックごとに、ジェンダー論の基礎的問題点を浅く広く追ってゆくが、秋学期はゼミをいくつかの小グループに分けて、グループ別のリサーチ・プロジェクトを行う。そのための準備、実行、分析などにも、かなりの時間を費やす予定。

【講義計画】

《春学期：主なトピック》

- ①ジェンダー論の基礎：“Sociological Hammer”とは？社会学とジェンダー論～どのようにジェンダーを使うか、事実の裏側にある「事実」を探ることの大切さ、概念の整理（ワークショップで扱った内容の復習とまとめ）、男性学の視点
 - ②身体性とジェンダー：ボディー・イメージはいかに作られるか、摂食障害の社会的背景
 - ③雇用とジェンダー：女性雇用の現状と企業組織経営に関わるジェンダーの問題
 - ④母性神話とリプロダクション：親役割観の形成とその影響、「本能」という装置、生殖技術に関わる問題
 - ⑤家族の中のジェンダー：性別役割分業、仕事と家族生活をいかに両立するか・できるかドメスティック・バイオレンス
 - ⑥セクシュアル・ハラスメント：それを許容し助長する社会的コンテキストや価値観
- これらの問題に関して、身近な例を参考に討論する。

《秋学期：グループ・プロジェクト》

- ①プロジェクトのテーマ設定（問題意識の整理、因果モデルと仮説の設定）
- ②基礎的な統計分析ツールの使い方、質問票の検討、作成、プレテスト、そして本調査の実施
- ③データ分析の練習、データ入力と数量解析、結果の分析と検討、報告とまとめ

【評価方法】

- 1 レポート（春学期：受講生本人の興味に沿った、ジェンダーに関連する内容の期末レポート、秋学期：リサーチ・ペーパーの文献レビュー） 40%
- 2 毎回のゼミでの発表や討論参加に対する積極性 30%
- 3 出席 30%

【テキスト】

さまざまな本からの抜粋を、リーディング・アサインメントとして用いる予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31311 31331	英米演習 I 10・II 10	必	春学期 秋学期	各2	3	川島 正樹	
他の科目との関連	「歴史研究の基礎A・B」を既に履修済みか現在履修中であることが望ましい					他学科履修	不可

【副題】 アメリカ合衆国の市民権運動（Civil Rights Movement）の歴史

【講義内容】 1950年代後半から1960年代全般にかけてアメリカ合衆国で高揚した、人種差別撤廃を目指した市民権運動（Civil Rights Movement）の歴史を、二年間かけて第二次大戦後から現在までを範囲として学ぶことを目指す。とくに留意するのは、市民権運動はそもそも出発点からアフリカン・アメリカン（アメリカ黒人）の法の下での平等という政治的な平等権を意味する所謂「市民権」を求める運動にとどまらなかったことであり、最終的な目標は市民権運動の時代が今日の世界に突きつけた未完の課題が何だったかを追求することである。

【講義計画】 (1)実際の授業の主要な時間は次のような要領に基づいて展開される。まずテキスト購読のような授業形式はとらない。受講生の人数にもよるが、数人ずつのグループ分けをし、報告形式で毎回1グループに授業を担当してもらう。春の最初の授業時に提示される第二次大戦以降の時期区分により、各グループの当面の分担を決める。各グループは手分けして文献やビデオ教材などを探し、それらをまとめて発表する。他の一般受講生もテキストなどで予習をするものとする。担当グループは単に調べたことを報告するだけでなく、一般受講生にどしどし質問をして討論を展開する責任も負う。一般の受講生は発言することを奨励される（内容にかかわらず、まず発言回数が平常点にカウントされるものと理解してほしい）。テキストの1章を1回の授業で終えるように進める。
(2)受講生は春学期と秋学期に各1本ずつのレポートを仕上げて提出する義務を課される。レポートの内容は原則的には授業に即したものとするが、授業内容と直接かかわりないテーマをリサーチペーパーで扱う予定の受講生はそれに関する研究レポートでも可とする。

【評価方法】 期末レポート（春学期、秋学期で各1部ずつ提出）をベースにし、分担報告および質問や意見の発表などの毎回の授業への貢献を総合的に判断する。

【テキスト】 (1)テキスト：Hampton, Henry, and Fayer, Steve, *Voices of Freedom: An Oral History of the Civil Rights Movement From the 1950s Through the 1980s* (New York: Bantam Books, 1991) (ISBN: 0-553-35232-6).
(2)参考書：授業で扱う各章に関する基礎的参考文献の一部は担当教官より事前に授業時に示されるが、基本的には当番のグループが報告時に参考文献・史料表を作成して配布することとする。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31312 31332	英米演習 I 11・II 11	必	春学期 秋学期	各2	3	宮川 佳三	
他の科目との関連	アメリカの外交 I、国際機構論、国際関係論の基礎B					他学科履修	不可

【副題】 「国際社会と日米関係」 I・II

【講義内容】 21世紀の第一年目の年にあつて、国際社会に於ける日本の有り様を考えるための基礎作業が私のゼミナールの主たる目的であります。特に国際社会に於ける日本の貢献に期待が向けられている。国内に於いてそれに関する議論が活発に行われ始めている。議論の中に積極的な貢献へのためらいがあります。特にそうした貢献が日本の軍事的なそれへであることに、国の中においても国の外においても心配や警戒がある。一体どこに原因があるのだろうか？

この問に答えるためには、19世紀及20世紀の国際社会に於いて日本はどのような関係を対外的に持つようになったのかを知る必要があります。特に日本が国際社会に対してその扉を開けることになった事情を国際的な政治や経済の面から考えてみる必要があります。更に言えば、アメリカとの関係をぬき日本と国際社会の関係を考えることはできません。

19世紀末から20世紀における日本の成長・発展を考える時に、アメリカを色々な点で意識したことを知ることが大事なことです。日本の対外行動はアメリカとの関係で行われたことがとても大きいと思います。特にアメリカと戦争をせざるを得なくなったこととしてその戦争に敗北したことは日本のアジア太平洋戦争後の日本の国際社会への関わり方を考える時にとっても大きな意味を持っていると思われます。

このゼミナールではアメリカと日本の歴史を対外関係の面で理解するようにします。そうすることにより、21世紀の日本のあるべき対外行動を考えるヒントが得られるものと思います。

常日頃国際社会で起こっていることに敏感であって欲しいと思います。

【講義計画】

I では「バックス・アメリカナの時代」に向かう18世紀・19世紀のアメリカの発展・成長を国際政治・経済の中で位置づける。建国期のワシントン、アダムズ、ジェファーソン大統領達の外交観、モンロー・ドクトリン、マンフェスト・デスティニー、門戸開放政策がいかなる国際関係の中で打ち出され、遂行されてきたかを考える。ヨーロッパに対する、アジアに対する、又ラテン・アメリカに対するアメリカの対外関係の発展を検討する。世紀転換期の国際政治・経済の中でアメリカがいかなる状態にあったかを考える。

II では20世紀——「アメリカの世紀」——、つまり、米西戦争をきっかけにしたアメリカ帝国主義の台頭から第二次大戦・太平洋戦争の終わり、冷戦の開始と冷戦の展開、ベトナム戦争、脱冷戦へ至る戦後のアメリカ外交のダイナミズムを取り上げる。又こうした対外関係のアメリカ社会への影響、大統領と外交・国家安全保障政策決定・遂行の関係にも目を向ける。

I・IIを通して、アメリカ外交の展開と並行して、日本の対外関係を歴史的に考える。

アメリカの外交・日本の外交の歩みを歴史的にたどるが、同時に今日のアメリカ・日本の外交の動き、国際政治の動きについても問題意識を十分持って、毎時ゼミ生の間で議論してもらう。

【評価方法】

論文の分担発表、クラスでの貢献、レポート、定期試験を総合的に評価する。

【テキスト】

アメリカの外交（史）及び日米関係の歴史を扱った英文論文。

有賀貞也編『概説アメリカ外交史』（有斐閣）

有賀貞也編『概説日米関係史』（有斐閣）

【その他】

参考図書

Patterson他 *American Foreign Policy I* (Helth)

アーネスト・メイ編『アメリカの外交』（東大出版会）

大下尚一他編『史料が語るアメリカ』（有斐閣）

Stephen E. Ambrose. *Rise to Globalism*.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31313 31333	英米演習 I 12・II 12	必	春学期 秋学期	各2	3	西村 貞雄	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】

Globalizationとアメリカ経済

【講義内容】

基礎的な経済問題を明晰に理解することを通じ、それが一見複雑な世界をどのように切り、通俗的な議論の誤りをどう明らかにするか、これを演習では議論していきたい。したがって、この演習ではたとえば本に書かれていることを覚え込んでいくような態度は求めない。むしろ、「権威者」の主張であっても、理解できないことは「わからない」と言える方が望ましい。いかに幼稚な議論であっても、自分で考えて議論に参加する学生を歓迎したい。

演習の具体的なテーマは、国際経済の中のアメリカ経済、である。「経済研究の基礎」レベルの議論を復習しながら、それによってアメリカ経済と国際経済の関わりについて正解や誤解を取り上げ、ゆっくり議論していくことが目標である。

【講義計画】

春学期はアメリカ経済を中心にその基本的な問題を理解することに重点をおき、秋学期に掛けて国際経済と関わるアメリカ経済の諸問題（ニューエコノミー論、所得分配の不平等化と貿易、通商政策、「国際競争力」問題、アジア通貨危機との関係、など）から問題を選んで議論していきたい。その過程で、学生に考えてもらいたい問題をいろいろ提示しようと思っている。

春学期はゼミ生をグループに分けて、テキストの報告とディスカッションを中心におこない、秋学期はゼミ生が自分の選んだテーマに基づいて小論文（レポート）を作成し、それを発表させる方針。春秋学期とも複数のレポートを提出させる。とくに他者の報告に対する積極的な批判、コメントを求める。

【評価方法】

授業での報告など授業への寄与度とレポートの評価による。

【テキスト】

未定

【その他】

本演習に参加する学生は「経済研究の基礎（ミクロ経済学）」を履修のこと（未履修の場合には演習と並行して履修のこと）。また本演習の受講生は「国際経済学1-1・2」および「アメリカの経済1-1・2」（担当：西村）を3年次に履修すること。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31341 31361	英米演習Ⅲ 1・Ⅳ 1	必	春学期 秋学期	各2	4	青柳 宏	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 普遍文法と個別言語

【講義内容】 国籍、人種、頭の良し悪しなどに関係なくヒトはだれでも少なくともひとつの言語を母国語として身に付けることができ、しかもそれは比較的短期間の内に（通例、4、5歳までに）行われる。これらの事実を合理的に説明するためにはヒトが「ことばの素」を持って生まれてくる（言い換えれば、ことばは遺伝的にプログラミングされている）と考えざるをえない。この「ことばの素＝生得的知識」はヒトという生物学的種に固有のもので人種や国籍に左右されないため「普遍文法」と呼ばれる。
この考え方に立つと日本語や英語や中国語といった個々のことばは単に「普遍文法」の「表れ」にすぎない。ゆえにどの言語もヒトのことばであれば満たさなければならぬ条件を満たしているはずだし、また潜在的には誰もがどの言語の母国語話者にでもなれるという事実から見て個別言語間の差異がそれほど大きいはずはない。
当ゼミでは表面的には随分違って見える日本語や英語や中国語といった個別言語の分析を通じてどうすれば「普遍文法」の姿に迫れるのかを考えてゆく。

【講義計画】 演習Ⅰ、Ⅱに続いて、文献を精読することにより生成文法における比較統語論の理論的道具だてに関する知識をさらに深めながら、日本語や英語を始めとする様々な言語のデータを具体的にどう分析するかを学ぶ。また、受講者各自が適宜発表を行い、ハンドアウトの作成やプレゼンテーションの技術を磨く。さらに、演習のクライマックスであるリサーチペーパーの執筆を通じて、4年間の学問の総仕上げとする。リサーチペーパー執筆のための研究プロジェクトは概ね以下の計画で進めて行く。

春休み	トピック決定（個別面談による）
演習Ⅲ（春学期）	基礎リサーチ（先行研究のクリティカル・レビュー）
夏休み	中間発表（ゼミ合宿で発表会を行う）
演習Ⅳ（秋学期）	発展と応用（個別指導による）
冬休み前	ラフドラフト提出
冬休み明け	直しと仕上げ（個別指導による）
1月末	最終稿提出

【評価方法】 演習Ⅲ、Ⅳともに、各種課題、発表、リサーチペーパー、ゼミへの貢献度を総合的に評価する。

【テキスト】 各種プリント。

【その他】 外国語学部英米科、日本語学科、人文学部人類文化学科、日本文化学科などで開講させる理論言語学関係の科目を並行履修することが望ましい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31342 31362	英米演習Ⅲ 2・Ⅳ 2	必	春学期 秋学期	各2	4	村杉 恵子	
他の科目との関連	「言語研究の基礎」などを既習。言語学の知識があることがのぞましい。					他学科履修	不可

【副 題】 文法の獲得

【講義内容】 人間言語の特性についての文法研究を行い、文法理論研究の基礎的な考え方についての理解を深める。特に、文法獲得の研究を中心として、人間が持つ文法能力の中身と、その発現の過程について、実証的理論的な考察をおこなう。

【講義計画】 題材としては、3年次に続いて、英語の文法現象を扱う。テキストに示された、個々の現象についての英語話者の文法獲得過程を、更に比較言語学的視点から捉え直し、普遍的な文法特性について考える。

【評価方法】 各学生の興味に応じ、言語に関する研究題材を選び、(1) 先行研究を調査し、(2) 仮説をたて、(3) データを採集、整理し、(4) 文法理論の枠組みで分析し、(5) 論文としてまとめて提出する。

【テキスト】 William O'Grady (1997) *Syntactic Development*. The University of Chicago Press.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31343 31363	英米演習Ⅲ 3・Ⅳ 3	必	春学期 秋学期	各2	4	堀部 充
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副題】 二十世紀アメリカ小説研究

【講義内容】 第一次世界大戦以降のアメリカ小説の代表作を取り上げ、それぞれの時代の思想、社会問題等が、どのような形で文学作品に反映されているかを考えたい。演習Ⅲでは、ロースト・ジェネレーションの作家 Hemingway、Fitzgeraldに、演習Ⅳでは、Faulkner、Salingerに焦点をあてて、それぞれの作品の主題を考察したい。

【講義計画】 演習Ⅲ Hemingway：短編小説、Fitzgerald：短編とThe Great Gatsby
演習Ⅳ Faulkner：短編小説、Salinger：短編とThe Catcher in the Rye
授業は作品、評論についての口頭発表、質疑応答、討論、講義の形式で進める。演習Ⅲでは10ページ程度のTerm Paper、演習ⅣではResearch Paperを課す。

【評価方法】 授業への出席、発表の内容、討論での貢献度、論文で総合的に評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31344 31364	英米演習Ⅲ 4・Ⅳ 4	必	春学期 秋学期	各2	4	近藤 祐一
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副題】 文化とコミュニケーション

【講義内容】 演習Ⅲでは、演習Ⅰで学んだ比較文化的視点とは違い、文化と文化が実際に衝突した場合にどうなるのかを扱う。つまり、在日日本人が日本以外の文化に対してどう反応するかや、「帰国子女」、在日外国人留学生の異文化適応など一般に異文化適応やカルチャーショックと呼ばれる行動力・心理的現象を範囲とする。演習Ⅳは主にリサーチペーパーに力点を置き、これまでの演習で考察してきた異文化コミュニケーションの問題を「社会科学的」方法で研究する。
この演習に登録する学生は「異文化とコミュニケーション」「政治とコミュニケーション」「人間関係とコミュニケーション」「コミュニケーション特殊講義」を履修すること。また、「基礎英語通訳法」、「上級英語通訳法」、「英語スピーチ法」を履修することが望ましい。

【講義計画】 演習Ⅲ
異文化コミュニケーションに関する研究の補足
異文化適応について学ぶ
異文化適応対処のプログラムについて学ぶ
調査法とデータ分析の補足
リサーチペーパーのためのデータ収集とデータをどう分析していくかを考えていく
演習Ⅳ
シニアプロジェクトのモニタリング
それぞれが準備するリサーチペーパーの題目についての討論とその指導。

【評価方法】 演習Ⅲについては期末考査及び2回のレポートにより評価、演習Ⅳについては3回の口頭発表及び期末レポートにより評価する。

【テキスト】 Condon & Yousef. (1975) *An Introduction to Intercultural Communication*. Bobbs-Merril: Indianapolis.
Samover & Porter. (1997) *Intercultural Communication: A Reader* (8th ed.). Wadsworth: Belmont, CA.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31345 31365	英米演習Ⅲ 5・Ⅳ 5	必	春学期 秋学期	各2	4	松 永 隆	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 第2言語習得と英語教育

【講義内容】 英米演習Ⅰ・Ⅱで学んだ、英語教育と密接に関する第2言語習得研究分野の知識を更に深め、実践研究の方法を習得することを主たる目的とする。中学や高校の英語教師として学習者のコミュニケーション能力を向上させるための教材作成、言語活動の計画、授業改善、教育改革など学習環境に関する理論と実践を学ぶ。

【講義計画】 英米演習Ⅲ
 主要な第2言語習得理論と仮説を批判的に検証し、テキストに基づくプレゼンテーション、テキスト以外の文献研究も含めたディスカッションを通して英語教育の理論と実践を具体的、批判的に考察します。英語教育実践研究の方法を学び、パソコンを利用してデータ分析に必要な統計処理の実習も行ないます。
 英米演習Ⅳ
 春学期に引き続き、英語教育実践研究の方法、データ収集・分析方法をさらに深く学ぶ。卒論であるリサーチペーパーの発表を各段階毎に行い、研究者としての英語教師に望まれる知識と技術の習得を目指します。

【評価方法】 英米演習Ⅲ
 小レポート（2回）、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。
 英米演習Ⅳ
 プレゼンテーション、リサーチ・ペーパーを中心に、総合的に評価します。

【テキスト】 未定

【その他】 参考図書
 ・ Nunan, D. 1992. Research methods in language learning. Cambridge Univ. Press.
 ・ Hatch, E. & Lazaraton, A. 1991. The Research manual : Design and statistics for applied linguistics. Newbury House.
 ・ Mitchell, R., & Myles, F.(1998). Second language learning theories. London : Arnold.
 ・ 清川英男 『英語教育研究入門』 大修館 1990年
 ・ 菅 民郎 『アンケートデータの分析』 現代数学社 1998年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31346 31366	英米演習Ⅲ 6・Ⅳ 6	必	春学期 秋学期	各2	4	高 井 次 郎	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副 題】 対人コミュニケーション研究

【講義内容】 演習ⅠおよびⅡで学習した実証的研究の具体例を通じて、コミュニケーション研究の要素を追究する。対人認知、対人関係の樹立や発展、対人葛藤、異性間コミュニケーション、医療コミュニケーションなどのテーマに関する研究論文を取り上げることにより、対人コミュニケーション研究の批評能力の育成を目標とする。

【講義計画】 演習Ⅲでは基礎的および理論的研究、演習Ⅳでは応用研究に焦点をあてる。指定された論文、あるいは学生の興味のある論文について、各研究の価値や方法論上の問題点などについて討論する。可能な限り卒論のテーマに一致したテーマを取り扱い、卒論の一助になることを目指す。

【評価方法】 研究批評に関する期末レポート、口頭発表、出席状況などを総合して成績を判定する。

【テキスト】 なし

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31347 31367	英米演習Ⅲ 7・Ⅳ 7	必	春学期 秋学期	各2	4	藤本 博	
他の科目との関連	「アメリカの外交2-1」、「アメリカの外交2-2」を履修することが望ましい					他学科履修	不可

【副題】 第二次世界大戦以降におけるアメリカ合衆国の対外関係

【講義内容】 本演習では、履修者各自の研究・ペーパーの課題設定をもとに、第二次世界大戦以降におけるアメリカ合衆国の対外関係に関わる諸問題を検討する。必要に応じて、アメリカ合衆国の対外関係に関する共通文献についての検討も行う。同時に、アメリカの対外関係を研究するうえでの文献検索・収集の方法についても習得を心がけたい。

【講義計画】 春学期においては、研究・ペーパーの課題設定に基づく共通文献報告ならびに各自による基本文献報告を中心に進め、秋学期においては、研究・ペーパーの進捗状況に応じて、各自による中間報告を中心に進める。

【評価方法】 リサーチ・ペーパーに対する取り組み（演習における文献報告、中間報告等）をもとに評価する。

【テキスト】 随時、指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31348 31368	英米演習Ⅲ 8・Ⅳ 8	必	春学期 秋学期	各2	4	藤本 哲史	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 ジェンダーと社会

【講義内容】 このゼミでは、3年次の継続としてさらにジェンダーの問題を迫ってゆく。春学期は、毎回授業の中に、受講生がリサーチ・ペーパーに関する中間報告を行うことにより、自分たち自身のジェンダーに関する興味や問題意識を披露し、お互いにリサーチに関するアイデアや情報を交換し、ペーパーの質を高めるチャンス盛り込みたいと思う。リサーチに関しては、仮説設定、分析へと進めていく。また同時に、3年次から取り組んでいるイントロおよび文献レビューのrefinementも行う。受講生にはグループ・プロジェクトの経験を活かして、各自の研究の調査、データ収集を開始してもらい、進行に合わせて分析結果および討論の章を書き始めてもらう予定。

【講義計画】 《前期》

- (1) リサーチ・ペーパーの中間報告
- (2) 仮説と議論の連結：いかに仮説を簡素化し、実証可能なものにするか
- (3) 分析と仮説の検証：何に注目し、どのように結果を出すか
- (4) 質問票の準備、プレテスト、サンプリング、データ入力と分析

《後期》

- ① Semi-Formal Debate：小グループ対抗形式で、ジェンダーに関する問題に関して討論する。
- ② Short Skit：小グループで日常的なジェンダーの問題を選び、それが持つ意味をわかりやすく解説する。
- ③ Public Speaking：それぞれの受講生にとってジェンダーとは何か、いかに日常生活の中で実践するか、できるか等について個別発表
- ④ リサーチ・ペーパー全体の整理、最終調整

【評価方法】

- 1 レポート（リサーチ・ペーパー） 40%
- 2 毎回のゼミでのディベート等参加に対する積極性 30%
- 3 出席 30%

【テキスト】 さまざまな本からの抜粋を、リーディング・アサインメントとして用いる予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31349 31369	英米演習Ⅲ 9・Ⅳ 9	必	春学期 秋学期	各2	4	LIM Robyn J.	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 International relations : an introduction

【講義内容】 An introduction to some concepts of international relations, with emphasis on the ASIA pacific region

【講義計画】 春学期：国際関係論研究の歴史的背景と理論的争点

- 1 国際関係論の研究手法
- 2 歴史的文脈
- 3 理論的論争と争点
- 4 「国際システム」

秋学期：現代国際関係論の主要な研究対象と分析方法

- 1 国家
- 2 個人
- 3 戦争と平和
- 4 国際政治経済
- 5 世界政府の可能性

【評価方法】 Assessment by seminar participation

【テキスト】 Joseph NYE Jr.,ed., Understanding international conflicts : an introduction to theory and history (third edition) Harpercollins, New york, 2000.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31350 31370	英米演習Ⅲ 10・Ⅳ 10	必	春学期 秋学期	各2	4	川島 正樹	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 アメリカ史を主な方法としたアメリカ研究をテーマとする各自のリサーチペーパーの作成

【講義内容】 市民権（公民権）運動史研究に集中した演習Ⅰ・Ⅱで学んだ歴史的方法論や基礎概念をさらに深化させることと並んで、各受講生は個々の関心にしたがって研究テーマを設定し、必要な資料（史料）・文献を集め、批判的に検討し、リサーチペーパーにまとめる。

【講義計画】 演習Ⅲ（春学期）とⅣ（秋学期）を通じて、各自のそれぞれの関心あるテーマに基づいてリサーチペーパーの作成の準備を重ね、完成をめざす。春学期には、まず冒頭の授業で論文の書き方や、そもそも論文とは何かについて確認し、文献検索の方法等を図書館やアメリカ研究センター、さらにはインターネット等を駆使して復習し、つづいて各自のテーマに最も関心のある文献の要約を交代で発表し合い、質疑応答をお互いに重ねることで、基礎的準備を完成する。秋学期には論文の章立てを構成した上で、各自が数度の中間発表を行い、質疑応答を重ねながら、最終的にリサーチペーパーの完成を目指す。

【評価方法】 両学期とも日常のゼミへの参加の内実を基本的に評価しつつ、春学期は主に文献レビューのレポート、秋学期は主にリサーチペーパーをもとに評価する。

【テキスト】 とくに定めない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31351 31371	英米演習Ⅲ11・Ⅳ11	必	春学期 秋学期	各2	4	宮川 佳三	
他の科目との関連	アメリカの外交Ⅰ、国際機構論、国際関係論の基礎B					他学科履修	不可

【副題】 「アメリカ外交と日米関係：日本（人）のアイデンティティ」Ⅲ・Ⅳ

【講義内容】 冷戦期のアメリカ外交の中でアジア政策・対日政策を中心的課題とする。朝鮮戦争、ベトナム戦争を取り上げることにより、米ソの対立が周辺地域において熱戦となる冷戦が持つ他の側面に注意を向け、そうした冷戦情勢が日米関係にどう反映されたのか、を考える。

このような作業のために、アメリカの対外関係を主にアジア政策と日米関係の展開を、まず歴史的に考える。演習Ⅲでは、アメリカ国内の膨張の延長線上に、海外進出→アジアへの進出→特に門戸開放政策を中心とした20世紀前半のアジア・日本に対する政策の展開を整理し、更に太平洋戦争への道をたどり、戦後の占領政策に及ぶ。演習Ⅳでは、占領政策語のアメリカの対日政策を冷戦政策の中で考える。特にニクソン政権下の対日政策に注目したい。最後に、脱冷戦の時代の日米関係について考える。

こうした日米関係の理解が「日本（人）のアイデンティティ」の問題を考える道を拓くものと考えられる。

【講義計画】 英文の論文を主テキストとして使用し、ゼミ生による報告・発表を中心に授業を展開していく。ゼミ生による積極的な問題・テーマへの取り組み姿勢が最も重要視される。

主にアメリカ外交の中でアジア政策・日米関係を歴史的にたどることになるが、同時に今日のアメリカ外交の動き全般についても問題意識を持って毎時ゼミ生の中で議論してもらう。

リサーチ・ペーパーの指導を夏休み前に開始し、12月・1月に数回のドラフト提出を求め、必要な修正・書き換えを求め、より内容のある論文になるよう指導する。

【評価方法】 論文の分担発表、クラスでの積極的なコミットメント、レポート、定期試験、リサーチ・ペーパーを総合的に評価する。

【テキスト】 アメリカ外交（史）及び日米関係の歴史を扱った英文論文。
細谷千博編『日米関係史』（有斐閣）

【その他】 参考図書
ウィリアム・ニューマン著『アメリカと日本』（研究社出版）
細谷千博編『日米関係通史』（東大出版会）
大下尚一他編『史料が語るアメリカ』（有斐閣）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31352 31372	英米演習Ⅲ12・Ⅳ12	必	春学期 秋学期	各2	4	西村 貞雄	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 国際経済問題の分析

【講義内容】 3年次からの継続。3年次に学んだ国際経済に関する理解を前提に、現実の国際経済問題を取り上げて論じていく。幾つかの論文集から各人の関心にしたがって論文を選び、その内容を批判的に検討し、これを秋学期に課されるリサーチペーパーのテーマにつなげてゆきたい。

【講義計画】 春学期は各人に選択した問題について論文の紹介と批判。秋学期はそれらに基づいてリサーチペーパーの作成を行う。

【評価方法】 報告及びリサーチペーパーの評価に基づく。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31601 31603	英語の構造Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	鈴木 達也	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14415「英文法論AⅠ」・14421「英文法論AⅡ」を参照

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31605 31607	英語音声学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	日野水 憲	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14401「英語音声学AⅠ」・14405「英語音声学AⅡ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31613	英語統語論	選	春学期	2	3・4	有元 将剛	
他の科目との関連	「言語研究の基礎」などで統語論に関する基礎的知識があることが前提					他学科履修	可

【講義内容】 現代の生成文法を理論的基礎として英語の統語構造を解明し、言語分析の方法を考える。適宜、日本語などの他の言語と対照し、人間言語の特性である普遍「文法を考えるとともに、個別言語としての英語の統語体系を考える。我々が毎日使っている言語の背後にある言語の仕組み、規則性を明らかにしたい。

【講義計画】 講義形式であるが、適宜、質疑応答、ディスカッションなどを含める。一方的に講義するのではなく一緒に考えていきたい。

【評価方法】 期末試験、小さなレポートなどで統合的に評価する。

【テキスト】 各種プリント

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31616	英語音韻論	選	集中	2	3・4	窪 蘭 晴夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人文学部日本文化学科開講科目 24776「日本語音韻論」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31621	日英対照研究 1	選	集中	2	3・4	鷲尾 龍一	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人文学部人類文化学科開講科目 22706「対照言語学」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31622	日英対照研究 2	選	秋学期	2	3・4	青柳 宏	
他の科目との関連	「言語研究の基礎」などの科目で、生成文法の統語論の基礎を既修のこと。					他学科履修	可

【講義内容】 人文学部人類文化学科開講科目 22761「人類文化特殊講義（指示の問題）」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31625	英語学特殊研究 1	選	春学期	2	3・4	村杉 恵子	
他の科目との関連	「言語研究の基礎」などを既習し、言語学の基本的知識があることが望ましい。					他学科履修	可

【副題】 心理言語学

【講義内容】 心理言語学の三つの主要な分野である、言語獲得、文（文章）理解、産出の諸問題について考える。他の分野（統語論、音韻論、意味論、形態論、神経言語学など）との関連についても言及する。春学期は、まず、認知と言語との関連について、主に「言語障害」の視点から、言語のモジュールの独立性について考察する。其の上で、心理言語学の主要な柱である文法獲得、文（文章）理解、産出の諸問題について、重要な論文を概説する。

【講義計画】 心理言語学の主要な柱である文法獲得、文（文章）理解、産出の諸問題について、講義する。

【評価方法】 各学生の興味に応じ、言語に関する研究題材を選び、（1）先行研究を調査し、（2）仮説をたて、（3）データを採集、整理し、（4）文法理解の枠組みで分析し、（5）論文としてまとめて提出する。

【テキスト】 授業時に指定する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31626	英語学特殊研究 2	選	秋学期	2	3・4	村杉 恵子	
他の科目との関連	「言語研究の基礎」などを既習し、言語学の基本的知識があることが望ましい。					他学科履修	可

【副題】 心理言語学

【講義内容】 心理言語学の三つの主要な分野である、言語獲得、文（文章）理解、産出の諸問題について考える。他の分野（統語論、音韻論、意味論、形態論、神経言語学など）との関連についても言及する。秋学期は、主に文法獲得（疑問文や受動態などの移動現象や、束縛理論など）について具体的な実証的研究を概観しながら、「なぜ、子供はこんなにもいろいろな文法知識をもつのか」に焦点をあて、人間のもつ生得的な文法知識の中身について理論的考察を加える。

また、第一言語獲得と第二言語獲得の共通点と相違点についても言及する。人間の脳の中に機能するニューロン体系が、人間の「学習」に関与するという前提にたち、第一言語、第二言語に共通する言語獲得装置の体系がどのような形で捉えられうるのかについても考察する。

【講義計画】 第1言語獲得や第2言語獲得に見られる「誤用」について、音、意味、統語、形態、誤用論などの面から重要な事実をとりあげ、それについての理論的分析を紹介する。

【評価方法】 各学生の興味に応じ、言語に関する研究題材を選び、(1) 先行研究を調査し、(2) 仮説をたて、(3) データを採集、整理し、(4) 文法理解の枠組みで分析し、(5) 論文としてまとめて提出する。

【テキスト】 授業時に指定する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31627	英語学特殊研究 3	選	秋学期	2	3・4	高野 祐二	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人文学部日本文化学科開講科目 24796「生成文法と日本語」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31628	英語学特殊研究 4	選	集中	2	3・4	TANCREDI Christopher	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人文学部文化人類学科開講科目 22716「意味論」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31629	英語学特殊研究 5	選	春学期	2	3・4	斎藤 衛	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 人文学部文化人類学科開講科目 22616「言語と知識（統語論）」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31651 31653	英米文学史（イギリス文学史）Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	荻野 昌利	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14431「イギリス文学史AⅠ」・14435「イギリス文学史AⅡ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31655 31657	英米文学史（アメリカ文学史）Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	武田 悠一	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目14445「アメリカ文学史AⅠ」・14451「アメリカ文学史AⅡ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31661	英米文学特殊研究1-1	選	春学期	2	3・4	橋本 恵	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ジェンダーの文学／文化研究

【講義内容】 文学作品には時代や地域をこえて、共通した主題をみることができる。もちろん、それは各時代、それぞれの地域、文化で多様な変容をみせる。このような観点にたつて、「ジェンダー」の主題を考えてみようと思う。講義は、「ジェンダー」を文学の主題であると同時に、文化現象、あるいは社会現象であるとして行おう。

【講義計画】 初期近代の文学作品を歴史的・社会的・文化的背景に位置づけて考察する。主要テキストとして、シェイクスピアの*The Merchant of Venice*, *As You Like It*, *Twelfth Night*を取り上げる。

【評価方法】 レポート

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31662	英米文学特殊研究1-2	選	秋学期	2	3・4	橋本 恵	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ジェンダーの文学／文化研究

【講義内容】 文学作品には時代や地域をこえて、共通した主題をみることができる。もちろん、それは各時代、それぞれの地域、文化で多様な変容をみせる。このような観点にたつて、「ジェンダー」の主題を考えてみようと思う。講義は、「ジェンダー」を文学の主題であると同時に、文化現象、あるいは社会現象であるとして行おう。

【講義計画】 ジェンダーの主題を持つ作品を歴史的・社会的・文化的背景に位置づけて考察する。テキストとして、小説、劇、詩などの文学作品ならびに絵画、映画など様々なジャンルのものを取り上げる。

【評価方法】 レポート

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31663 31664	英米文学特殊研究 2 - 1、2 - 2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	鈴木 孝夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14632 「英文学特殊講義A I 2」、および14642 「英文学特殊講義A II 2」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31665 31666	英米文学特殊研究 3 - 1、3 - 2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	SELAND John	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14633 「英文学特殊講義A I 3」、および14643 「英文学特殊講義A II 3」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31667 31668	英米文学特殊研究 4 - 1、4 - 2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	山崎 勉	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14634 「英文学特殊講義A I 4」、および14644 「英文学特殊講義A II 4」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31669 31670	英文学特殊研究 5 - 1、5 - 2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	中村 栄造	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14636 「英文学特殊講義A I 6」、および14646 「英文学特殊講義A II 6」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31671	英米の小説 1 - 1	選	春学期	2	3・4	鈴木 俊次	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 現代作家Roald Dahlの短編小説を読む

【講義内容】 現代イギリスの作家Roald Dahlの両親はノルウェイ人であるが、Dahl本人はイギリスのウェールズで生ま

れ、イギリスで学校教育を受けている。Dahl作品の特質はそのストーリーの奇抜さ、登場人物のこっけいさ、ミステリイのような謎解きの面白さ、そしてどんでん返しの終わり方など、およそ小説読者ならどんどん読み進みたくする要素を総て備えているといえる。加えて、その英語は平明で余り辞書を引かなくても楽に読み進むことができる。今期はこうしたDahl作品の中から“Lamb to the Slaughter”、“Dip in the Pool”、“William and Mary”の3編を読むことにする。この3作を読むことでDahl文学の特質と、小説作品を読む楽しさを味わってもらいたいと思う。

【講義計画】 文学作品を読むのであるから、単に英文を日本語に訳してストーリーを楽しむだけでは不十分であろう。文学作品というテキストの中の比喩やイメージ、象徴性、人物描写の面白さ、アイロニカルな表現など注意して行きたい。
毎時間テープを利用して聴解力の向上に勤めると同時に、できるだけ多量の平明な英文を速読する練習をする。学生諸君には毎回予定の分量をあらかじめ読んで授業に参加してもらいたい。

【評価方法】 主として英文によるレポート（用紙、枚数などは授業の中で指示する）で評価するが、出席、授業での発表等も考慮する。

【テキスト】 Roald Dahl, *Dahl's Best Short Stories*（南雲堂）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31672	英米の小説1-2	選	秋学期	2	3・4	鈴木 俊次
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 三人の現代イギリス作家を読む

【講義内容】 イギリスの1920年代は文学の世界において実りの多い時代であった。今世紀最大の小説家と称せられるJames Joyce、そしてJoyceとは好対照をなす天才作家D. H. Lawrence、短編小説の名手で女流作家Katherine Mansfield、その他E. M. Forster、Virginia Woolfなどはほぼ同時代に活躍した作家は数多い。今期はJames Joyceの初期の短編“Araby”、D. H. Lawrenceの短編“The Rocking-Horse Winner”、Katherine Mansfieldの中編小説“The Garden-Party”を読んで比較検討してみる。Joyce作品は淡々とした英文に秘められた象徴性の豊かさを、Lawrence作品からは男女の愛のあり方を、Mansfield作品からは女性作家ならではの繊細さを味わうことができればと思う。

【講義計画】 文学作品を読むのであるから、単に英文を日本語に訳してストーリーを楽しむだけでは不十分であろう。文学作品というテキストの中の比喩やイメージ、象徴性、人物描写の面白さ、アイロニカルな表現など注意して行きたい。
毎時間テープを利用して聴解力の向上に勤めると同時に、できるだけ多量の平明な英文を速読する練習をする。学生諸君には毎回予定の分量をあらかじめ読んで授業に参加してもらいたい。

【評価方法】 主として英文によるレポート（用紙、枚数などは授業の中で指示する）で評価するが、出席、授業での発表等も考慮する。

【テキスト】 E. M. Forster, J. Joyce, K. Mansfield他、*Modern British Short Stories*（成美堂）
田中・横山（注）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31673	英米の詩	選	秋学期	2	3・4	WORDELL Charles
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 Twentieth Century American Poetry

【講義内容】 This course is a general introduction to American poetry of this century. We will read poems by eleven poets from the period 1900 to 1950. Poems and songs share many qualities, including rhyme, rhythm, and the use of images. Students in this course will study famous poems along with great songs by popular singers. Before

class every week, students will read and answer questions about one or two poems by classic American poets such as Robert Frost, Ezra Pound, and T. S. Eliot. During class, the teacher will lecture about poetry and the poet, and students will discuss the poem. Also, each week students will listen to and discuss the poetic qualities of one popular American song.

Each week students will read two short poems by a poet and will answer questions about the poems in written homework. Lectures will describe the life and work of each poet, and will also explain how to analyze, discuss, and enjoy poems. The lectures will be in English, but students will be able to discuss the poems in Japanese in small groups.

【講義計画】 Class 1: Introduction; Class 2: Robert Frost; Class 3: Carl Sandburg; Class 4: William Carlos Williams; Class 5: Ezra Pound; Class 6: T. S. Eliot; Class 7: Edna St. Vincent Millay; Class 8: e. e. cummings; Class 9: Langston Hughes; Class 10: John Berryman; Class 11: Lawrence Ferlinghetti; Class 12: Charles Bukowski; Class 13: Presentations

【評価方法】 Class grade will be based on enthusiasm and effort in class (30%), on completion of the homework writing and reading assignments (30%), one presentation (20%), and a final report (20%). Because much of our work will be done in class, it is necessary for you to come to class and participate. Too many absences will affect your grade.

【テキスト】 Students will receive handouts containing the poems and notes about analyzing poetry.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31674 31675	英米の演劇 1-1、1-2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	小林 かおり
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 文学部英語学英文学科開講科目 14635「英文学特殊講義AⅠ5」・14645「英文学特殊講義AⅡ5」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31681	人間関係とコミュニケーション	選	秋学期	2	3・4	高井 次郎
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 対人コミュニケーション論

【講義内容】 対人関係の発展において、コミュニケーションがどのような役割を果たすのかを検討する。

【講義計画】 講義では次の問題について検討する

1. 対人コミュニケーションの特質
2. 言語と対人コミュニケーション
3. 非言語コミュニケーション
4. 対人関係の初期段階のコミュニケーション
5. 対人関係維持のためのコミュニケーション
6. 対人葛藤とコミュニケーション
7. 対人コミュニケーション能力
8. 対人影響過程と態度変容

【評価方法】 期末試験および出席状況などを総合して判定する。

【テキスト】 深田博巳 『インターパーソナル・コミュニケーション』 北大路書房 1998年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31685	異文化とコミュニケーション	選	春学期	2	3・4	近藤 祐一	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 異なる文化背景を持つ人々が出会い、コミュニケーションを介して関わり合いを持つ場合、どのような変数がどのように影響を与え合うのかを考える。特に、「コミュニケーション研究の基礎」で得た理論的フレームワークに「文化」というパースペクティブを加える。この授業では、教室での理論の紹介と具体的な例の紹介だけでなく、教室外での実習（小グループプロジェクト）を用い、知識だけでなく、異文化コミュニケーション的な視点を獲得することを目標とする。教室外でのこの授業の予習やグループプロジェクトのために必要な時間は一週間あたり約5時間程度。

【講義計画】 授業は、それぞれのトピックについての講義とそれについてのグループプロジェクトからなる。トピックについては、2回の講義が行われ、そのトピックについてプロジェクトを行い、それを提出する。扱うトピックは以下の通り。

- I 異文化コミュニケーションの見方とは
歴史的背景、応用分野
- II 価値観と異文化コミュニケーション
文化がどう我々の思考方法に影響を与えているのか
- III 言語と異文化コミュニケーション
言語の違いがコミュニケーションに果たす役割
翻訳・通訳の役割
- IV 非言語と異文化コミュニケーション
気付かないセクハラ
- V 共文化と異文化コミュニケーション
オトコとオンナ
世代間のコミュニケーション
- VI 異文化適応
異文化コミュニケーション能力
- VII 国際コミュニケーション
国際放送競争

【評価方法】 評価は、4回のグループプロジェクトレポート（80%）、および期末試験（20%）による。

【テキスト】 Condon & Yousef. An Introduction to Intercultural Communication. 金星堂 他

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31687	コミュニケーション特殊研究	選	秋学期	2	3・4	岡部 朗一	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 マスコミュニケーションとしてのテレビメディアの可能性

【講義内容】 民間テレビ放送局の現職役員、社員が毎回講師となって、マスコミュニケーションとしてのテレビメディアの潜在的な可能性とその課題を多角的、実践的に論じる。授業では、各講師が報道、制作等の現場体験と専門知識を駆使して、現在放送中の生の素材をふんだんに使いながら講義を進め、受講者の「メディアリテラシー」（テレビに代表されるマスメディアを主体的、批判的に視聴できる能力）を高める一助としたい。講義を担当するのは名古屋テレビ放送株式会社の前田武廣（常務取締役編成本部長）、松本国昭（制作局長）、斎藤秀明（報道局報道部長）、佐藤祐治（報道局報道制作部長）、早川健一（報道局スポーツ部長）、吉田鏡（ITセンターメディア開発部長）の各氏である。岡部朗一は講義全体のコーディネーションを図り、質疑応答を中心としたディスカッションのファシリテーターとしての役割を果たす。なお、第7回目の授業（11/14/01）は「学外授業」として位置づけ、名古屋テレビ放送のスタジオおよび制作現場を訪問し、自社制作番組ができるまでのプロセスを見学する予定である。

【講義計画】 授業では、各担当者が次のトピックを論じる予定である。
1. 10/03/01: 「この授業のねらい」授業の目的、形式、評価方法等を説明する（岡部朗一）；「テレ

- ビメディアの生い立ち」放送の歩みを振り返り、マスコミュニケーションとしてのテレビメディアを概観する。(前田武廣)
2. 10/10/01: 「エンターテイメント系テレビ番組の歴史と現状」エンターテイメント系テレビ番組の代表的なものの変遷を辿りながら、時代とともに番組作りがどう変わってきたかを論じる。(松本国昭)
 3. 10/17/01: 「エンターテイメント系テレビ番組の制作の実際」エンターテイメント系テレビ番組の企画、取材、構成、編集、放送までを俯瞰する。(松本国昭)
 4. 10/24/01: 「事件・裁判報道とテレビ」報道の自由と人権の尊重というジレンマの中で、テレビは事件・裁判報道をどのように伝えるべきかを考える。(斎藤秀明)
 5. 10/31/01: 「政治・選挙報道とテレビ」公正さ・公平さを保ちながら、テレビは政治・選挙報道をどのように伝えるべきかを論じる。(斎藤秀明)
 6. 11/07/01: 「ネットワークとローカル局の報道の視点」「ニュースステーション」等を題材にしなが、ネットワークとローカル局に見られる報道の共通点と相違点を論じる。(斎藤秀明)
 7. 11/14/01: 学外授業「スタジオおよび制作現場の見学」夕方ニュース情報番組の放送現場を見学する。
 8. 11/21/01: 「ローカル情報番組の存在意義」「コケッココー」の担当者としての立場から、ローカル情報番組の存在意義を実践的に考える。(佐藤祐治)
 9. 11/28/01: 「ドキュメンタリー番組の可能性と課題」「名古屋テレビ特集」の辿ってきた軌跡を回顧しながら、民間テレビ局のドキュメンタリー番組の潜在的可能性とその課題を論じる。(佐藤祐治)
 10. 12/05/01: 「スポーツ番組の現状」スポーツとビジネスの問題に触れながら、スポーツ番組の制作プロセスを紹介する。(早川健一)
 11. 12/12/01: 「放送基準と放送倫理」テレビ番組に対する低俗化批判とテレビ放送の自主性、自立性の問題を考える。(前田武廣)
 12. 12/19/01: 「デジタル時代のテレビ」デジタル時代の21世紀を迎え、テレビメディアの新しい展開を考える。(吉田鏡)
 13. 01/09/02: 「この授業を振り返って」これまでの11回の講義と1回の「学外授業」を総括する。(岡部朗一、各講義担当者)

【評価方法】 各講義担当者より出題される課題トピック（複数のものから1題を選択）に関する期末レポートと、毎回の授業時に提出する「フィードバック・カード」を基に行なう出欠調査のデータを考慮して、総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。必要に応じて、参考資料としてプリント類を配付する予定である。

【その他】 毎回の授業の最後に設定される質疑応答を中心としたディスカッションには、積極的に参加すること。また、授業時間の制約から、授業時には指定されたテレビ番組のサワリしかVTRで紹介できないから、指定されたテレビ番組は予め視聴しておくか、視聴覚ライブラリーにビデオテープが用意されるので、それを予め視聴しておくことが必須である。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31695	英語教授法	選	秋学期	2	3・4	松永 隆
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 Collaborative Learning and Autonomy

【講義内容】 外国語教育は応用言語学の分野に位置づけられるが、この分野に密接に関わる言語習得理論を概観し、コミュニケーション能力の開発という観点から、理論と実践の両面において理解を深めることを目的とする。言語習得理論は、母語の役割と学習者要因に関係するものを取り上げ、リサーチの企画、データ収集・分析など、実証的研究へのヒントも示したい。

【講義計画】 次の項目を取り上げ、講義形式とディスカッションを併用しながら進めていく。

1. Introduction to CLT (Communicative Language Teaching)
2. The Teacher as Input
3. The Student as Learner
4. Collaborative Learning
5. Learner Autonomy

【評価方法】 隔週実施する小テスト、中間・期末テスト（小レポートの可能性もあり）、出席を総合的に評価する。なお、欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多(S)」による不合格とする。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31701	マスメディアの英語 I	選	春学期	2	3・4	YARDLEY Gabriel	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 The purpose of this course is to encourage students to analyse certain elements of the mass media and popular arts, and to consider their role in both reflecting and influencing modern Japanese society. It will feature a number of general themes or modules for analysis and discussion, dealing, for example, with aspects of education, woman and work, romance, and the greying of society. A selection of elements from mass media and popular arts such as film, TV documentaries, literature, journalism, art and music will be used to review and evaluate the contemporary concerns under discussion.

As the majority of participants are expected to be female, there will be a certain bias in several of the themes to be analysed toward issues regarding women in society and aspects of gender discrimination.

【講義計画】 Students will be expected to prepare for class by reading the texts provided by the instructor, and occasionally by themselves producing materials for class. Throughout the course, students will be invited to give informed and well-presented opinions through both discussion and a number of written assignments.

It is hoped that the course will develop our ability to analyse and respond to the various media elements that will be used to reinforce the topics under discussion. It is also intended that spoken and written expressions of opinion will benefit from the use of topic-related vocabulary lists.

【評価方法】 Participants will be graded on the following course requirements:

conscientious class preparation and participation;

regular, punctual class attendance:

if you are consistently late, or

if you are absent three or more times from class, you will not be able to receive a final grade.

one 600 word essay to be turned in on completing each course topic; and

a final examination (essay format).

A total of three essays will be required for the semester and all essays submitted must be produced using a word processor. A passing grade cannot be given to any participant who falls short of fulfilling all of these grading requirements.

【テキスト】 Materials will be provided by both the instructor and participants in the course.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31702	マスメディアの英語 2	選	秋学期	2	3・4	宮川 佳三	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 国際政治・経済・社会の英語：リーディングとリスニングとライティング

【講義内容】 国際政治・経済・社会のニュースを読んだり、聞いたり、ビデオを見たりして、世界の経済・政治・社会の動向を理解しながら、読む力、聴く力を増大させ、英語の表現、英文の構造、英文記事全体の構造等に自分自身で近づき、実際に国際政治・経済・社会の諸問題について英文エッセイを書くこともする。

【講義計画】 リーディングのために、英字新聞・雑誌の記事・論説・解説を利用し、リスニングのために、ABC、CNN、PBS、NHK-BS、BBCの番組を使用する。多くの予習を課し、特にリスニングに関しては、番組を録音し、全文ディクテーションや要約「英文」の宿題を毎時課す。授業ではリーディング及びリスニング資料の分析・理解を各自に求める。毎回ディクテーションを含む小テストを行う。英語での議論・討論・意見の交換を行うことができればいいと思っている。受講者の積極性に期待する。

【評価方法】 小テスト、ディクテーションや要約の宿題、授業への参加度、定期テキスト、出席率をトータルに評価する。安易な履修をしないこと。

【テキスト】 新聞・雑誌の記事・論説・社説約150件を資料として使用。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31711	基礎英語通訳法	選	春学期	2	3・4	近藤 祐一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 この授業では、英語通訳をする上で必要な技能を身につけることを目標とする。そのために、視聴覚教室においてアメリカのニュース番組等を使用し、英語圏の社会・文化背景を学ぶだけでなく、英語の語彙・表現を豊かにする。また、リスニング能力の向上、アクセントの矯正なども行う。

【講義計画】 英語通訳とはどういうものか、通訳に必要な技術をどう学ぶかを中心に授業を進める。この科目はあくまでも技術を教授するものである。毎回の課題を精力的にこなすことが求められ、さらに教室外でも相当の自習が求められる。特にこの授業では通訳に必要なリスニング力、内容把握力、単語力を身につけることに重点を置き、前半は、リスニングとアクセント修正練習を行う。学期後半は、逐次通訳の初歩として、簡単な英文の通訳を通して、通訳ノートの取り方や適切な訳をする方法を学ぶ。毎回授業のはじめに語彙の強化を目的とした単語テストを行う。

【評価方法】 毎週の小テスト（40%）および教室内での実習の成績（60%）によって評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31721	上級英語通訳法	選	秋学期	2	3・4	近藤 祐一	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 基礎英語通訳法で培った技能を基に、通訳ノートの取り方、逐次通訳・同時通訳の基礎を学ぶ。また、通訳時に起こる異文化コミュニケーションの諸問題についても学習する。

【講義計画】 基礎英語通訳法に続き、英語通訳とはどういうものか、通訳に必要な技術をどう学ぶかを中心に授業を進める。この科目はあくまでも技術を教授するものである。毎回の課題を精力的にこなすことが求められ、さらに教室外でも相当の自習が求められる。授業は、テレビニュースを使った小テスト、実技練習からなる。学期前半は、基礎英語通訳法で訓練した、リスニング力、内容把握力、単語力をもとにいくつかのスピーチを用いて同時通訳（英日）の基本を中心に学ぶ。後半は、逐次通訳の技術をさらに深めることを目標とする。現場での通訳ができるように、いろいろな形態の通訳を経験することも含めていく。

【評価方法】 毎週の小テスト（40%）および教室内での実習の成績（60%）によって評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31731 ） 31734	英語翻訳法 1・2・3・4	選	春学期 秋学期	各2	3・4	ASTLEY Trevor	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 日本語で書かれた文章を英語に翻訳する技能を学ぶ。日本語と英語に見られる言語的な差異を留意して、日本語の文章を英語で正確に翻訳する訓練を行う。

- 【講義計画】 人文や社会科学の分野を中心に、多様な日本語のテキストを翻訳者の立場から見て、その問題点を指摘しながらふさわしい英語に直す訓練をする。
- 【評価方法】 発表と翻訳のプロジェクトによる評価とする。
- 【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31751 } 31754	ビジネスコミュニケーション1・2・3・4	選	春学期 秋学期	各2	3・4	WRIGHT Mark	
他の科目との関連						履修対象学科	不可

- 【講義内容】 This course is designed to give the student a general introduction to the English used in international business situations. Content will cover the different forms of written communication used in business such as memos, reports and presentations. In addition, there will be a component focused on personal interaction; a basic introduction to the manners and spoken language used in formal and informal business situations.
- 【講義計画】 Each class will be divided into three sections: theory, discussion and practice. Emphasis will be placed on students' understanding of the material, their ability to critically analyze the material, and their ability to actualize their understanding in real and simulated situations. The class will be participatory with emphasis placed on student involvement. All teacher-student and student-student interaction for the course will be in English.
- 【評価方法】 Evaluation will be through a negotiated process with the following factors being considered: quantity and quality of class participation; quantity and quality of assignments; achievement on quizzes, tests and the final project. There will be outside reading required and homework assigned every class. Every student will be required to complete a final report or project after consultation with the instructor.
- 【テキスト】 To be decided.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31761 31762	クリエイティブライティング1・2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	KINDT Duane	
他の科目との関連						他学科履修	不可

- 【講義内容】 The words that we most often associate with *creative writing* are “story,” “poetry,” and “drama.” But learning to write creatively can make any kind of writing—from academic papers to New Year’s cards—more colorful, expressive, and interesting.
- With this in mind, Creative Writing intends to give students several opportunities to expand their skills and interests in expressing themselves more vividly and descriptively in English. Though we will focus on the popular genres of narration, poetry, and drama, other types of writing may also be explored. Students will discover how becoming more familiar with literary concepts such as symbol, metaphor, plot, and point of view and writing processes such as brainstorming, drafting, revising, and editing can contribute to becoming a more creative writer. They will also discover that creative writing can be enjoyable and satisfying.
- 【講義計画】 Classes will be conducted using a mixture of short lecture, discussion, creative writing activities, and student presentations. Because success in writing creatively depends greatly on our ability to remove inhibition and “open up our creative selves,” students will be asked to assist in creating a friendly, relaxed, and supportive atmosphere in and outside of the classroom. After all, it is through the courage to share ideas and writing with others, that a student can discover his or her own creative voice.
- 【評価方法】 Evaluation will be based on a portfolio of creative writing, a creative writing journal, and enthusiasm and effort in class. Since assignments are related to class activities, it is essential that you come to class on time and participate fully. Each absence will reduce your grade, those students having more than 3 absences being

unable to receive credit.

【テキスト】 To be decided, if any.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31763	クリエイティブライティング 3	選	春学期	2	3・4	WORDELL Charles
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副題】 Creative Writing

【講義内容】 In this one-semester course, students will learn to use more colorful, descriptive, and expressive English in their writing. We will use poetry, essays, narration, short dramas, and fiction to express ourselves. First students learn what makes a piece of literature good, and then they apply those standards to works they create themselves. This is your chance to show your creative and artistic side in English.

There will be short reading and writing assignments, as well as the exercises we will do in the class. There will be no textbook required for this class.

You will have a "Class Journal" in which you will write various short assignments during class time, and any comments you have about the material you read and the things you are writing about. You will also use this journal to write down ideas or phrases that will be useful for your writing.

【講義計画】 Class 1-3: Reading and Writing Songs and Poetry; Class 4-5: Reading and Writing Essays; Classes 6-8: Viewing and Writing a Video Narration; Classes 9-11: Reading and Writing a Short Drama; Classes 12-14: Reading and Writing Short Fiction

【評価方法】 I hope to conduct this class in a relaxed and enjoyable atmosphere so we can explore many ways of exchanging ideas. Class grade will be based on enthusiasm and effort in class, and on completion of the homework writing and reading assignments. Because much of our work will be done in class, it is necessary for you to come to class and participate. Too many absences will affect your grade.

【テキスト】 No text will be used in this class. Instead, there will be handouts.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31764	クリエイティブライティング 4	選	秋学期	2	3・4	JANSSEN Jeanne
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 未定

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31801	アメリカの思想1-1	選	春学期	2	3・4	小池 英光
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 文学部哲学科開講科目11681「哲学史特殊講義D I」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31802	アメリカの思想1-2	選	秋学期	2	3・4	小池 英光	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 文学部哲学科開講科目11685「哲学史特殊講義DⅡ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31805	アメリカの社会1-1	選	春学期	2	3・4	藤本 哲史	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ジェンダーと社会

【講義内容】 このクラスの目的は、現代アメリカが抱える社会問題、特に学校教育、雇用労働、家族、ライフスタイル、健康などの領域における問題を、ジェンダーの視点から整理、分析することにある。これらの社会領域に、ジェンダーはどのような影響を与えているのか、そして女性と男性はどのように相互に関わりあいながら社会をダイナミックに形成しているのかを探索する。また、アメリカが経験するジェンダーの問題は、果たして日本などの先進国全体に共通する問題なのかを考える。まず第一に、ジェンダーの社会的構築、社会生活のジェンダー化とはどのようなことを意味するのかを確認し、上記の社会生活の各側面において、どのようにジェンダー化が進行し、その結果どのような社会問題が引き起こされているかを見ていく。これらの事柄を考える際、常に日本の現状と照らし合わせて、アメリカが抱える問題を、単に「海の向こうの国の問題」として捉えるだけでよいのか検討する。

【講義計画】 具体的には、以下のような問題を考える。
 (1) ジェンダーとは、ジェンダーと関連概念について
 (2) 性役割：ジェンダー・アイデンティティー形成上の問題
 (3) 学校教育のジェンダー化、教育における隠されたカリキュラム、キャンパス・セクハラを生む土壌
 (4) 雇用における男女不平等の現状と問題点：性別職務分離
 (5) 家族の中の勢力関係と性役割分業、家事労働について
 (6) 変容する結婚と家族関係：離婚問題と家族形態
 (7) ドメスティック・バイオレンス
 (8) セクシュアル・アブュース
 (9) オルタナティブ・ライフスタイル、性的指向性、ホモフォビア
 (10) プロダクティブ・ライツ、性の自己決定権とは

【評価方法】 期末試験 100%

【テキスト】 指定テキストなし

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31806	アメリカの社会1-2	選	秋学期	2	3・4	藤本 哲史	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 雇用と組織のジェンダー分析

【講義内容】 このクラスでは、現代社会において雇用労働、職場、経営組織がいかに性によって分化、階層化されているかを、アメリカと日本の社会を比較しながら探る。中心を貫くテーマは雇用における男女不平等とそれが社会に与える影響であるが、特に経営組織における性別職務分離 (sex segregation) に焦点を絞る。アメリカにおける性分離の歴史やトレンド、また賃金や昇進構造のジェンダー化、そして職場における男

女の勢力関係の規定要因や職業生活経験の男女格差等の問題に触れる。また、家庭生活と仕事生活との関係、特にワーク・ファミリー・コンフリクトの問題についても触れ、アメリカ企業の家族支援政策の展開を日本企業との比較において考察する。

【講義計画】

具体的には、以下のような問題を考える。

- (1)労働とジェンダー：労働のジェンダー化とは何か
- (2)欧米における労働のジェンダー化の概史：産業革命が性分業の強化に与えた影響と男女分離思想
- (3)労働における男女不平等の概説：性差別に関するさまざまな言説（社会・文化的価値観、権力作用、事業主の意図と行動、女性による仕事選択の問題など）
- (4)経営組織における性別職務分離：アメリカにおける性分離の歴史、職務レベルと職業レベルの性分離、職務分離指標（Index of Segregation）による分離の時系列および国際比較
- (5)賃金、昇進、職務権威の男女格差と、その原因に関する言説
- (6)ワーク・ファミリー・コンフリクト：企業による従業員の家庭生活支援、Family-Responsive Policiesについて
- (7)職場のセクシュアル・ハラスメントを考える

【評価方法】

期末試験 100%

【テキスト】

指定テキストなし

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31807	アメリカの社会2-1	選	春学期	2	3・4	RIEMER Robert
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】

Ethnic and Racial Groups in the United States- I

【講義内容】

This class shows the growth and development of the United States as a nation through the immigration of various ethnic and racial groups to America. The starting point of this study is the 13 States which gained independence from England together with the the Native Americans who lived in North America before Columbus crossed the Atlantic Ocean. The small country of 13 States expanded into a huge country touching two oceans with over 200 million inhabitants. The course will be taught in English.

【講義計画】

The following topics will be dealt with in this class.

- 1) The reasons why the 13 States invited immigration, which sped the growth of the country.
- 2) A sociological study of the the Native Americans (American Indians). This includes their diversity in culture and the tragedy of their encounter with the white people. Reasons for their lack of assimilation are considered.
- 3) An analysis of the white immigrants coming from various countries in Europe. Their amalgamation and assimilation into the main racial group in America is considered.
- 4) The long path of captivity, slavery, dependency, freedom of the Afro Americans will be scrutinized. Their contribution to American culture and society is investigated.

【評価方法】

One-third of the grade will be based on class participation.
 One-third of the grade will be based on an assigned report.
 One-third of the grade will be based on the final examination.

【テキスト】

Print-outs will be distributed to the students.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31808	アメリカの社会2-2	選	秋学期	2	3・4	RIEMER Robert
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】

Ethnic and Racial Groups in the United States-II

【講義内容】 This class shows how America continued to welcome immigrants even though at times the law limited the number of people who wished to migrate to the United States. The first half of the 20th century saw a continuation of white people, but the second half witnessed a great increase of Asians. America gradually began to take Asians and Asia seriously. The course will be taught in English.

【講義計画】 The following topics will be dealt with in this class.
 1) Immigration patterns in America in early 20th century.
 2) Chinese immigrants and their exclusion from America.
 3) Japanese immigrants and the Relocations Camps.
 4) Other Asians enter America.
 5) Mexican Americans find a home.
 6) Other Hispanics seek wealth and freedom in America
 7) Civil Rights Movement help Afro Americans and Others.

【評価方法】 One-third of the grade will be based on class participation.
 One-third of the grade will be based on an assigned report.
 One-third of the grade will be based on the final examination.

【テキスト】 Print-outs will be distributed to the students.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31811	アメリカの宗教 1 - 1	選	春学期	2	3・4	RIEMER Robert
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 Religion in the Modern World I

【講義内容】 The class will show how Religion has always been an important aspect of American Society. Then an analysis of religion in America will be given from a sociological point of view. To exemplify the place of religion in society, it will be shown how certain people and events played an important part in keeping religion in the consciousness of all the people.

【講義計画】 The following topics will be taken in class.
 1) The meaning of religion in the private life of individuals and in public society.
 2) The sociology of religion in Modern America.
 3) Protestant Church grows with the religious revivals.
 4) Catholic Church develops into an urban church.
 5) Jewish Religion remains an ethnic religion in USA.
 6) Afro Americans have great leaders, Martin Luther King, Jr. and Malcom X.

【評価方法】 One-third of the grade will be based on class participation.
 One-third of the grade will be based on an assigned report.
 One-third of the grade will be based on final examination.

【テキスト】 *The Church in the Modern World*
 Print-outs will be distributed in class.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31812	アメリカの宗教 1 - 2	選	秋学期	2	3・4	RIEMER Robert
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 Religion in the Modern World II

【講義内容】 The class will take different aspects of religion in America. It will be shown that the organization of religious groups developed in a unique way in USA. Religion has also entered into the social institutions in such a way that religion is part of the identity of most Americans. Also, religion is a major factor when it comes to consider secularization, prejudice, conflict, and diversity in American society.

【講義計画】 The following topics will be taken in class:
 1) Organization of religion into churches, denominations, sects, and cults.
 2) Religion influences on the Family, Education, Government, and Business in USA.
 3) Various minority religion groups in USA are discussed.
 4) Secularization in modern society.
 5) Religion and prejudice and conflict.

【評価方法】 One-third of the grade will be based on class participation.
 One-third of the grade will be based on an assigned report.
 One-third of the grade will be based on the final examination.

【テキスト】 *The Church in the Modern World*
 Print-outs will be distributed in class.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31815	アメリカの文学	選	春学期	2	3・4	堀部 充
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 アメリカ黒人文学

【講義内容】 アメリカの黒人文学を歴史的に概観し、アメリカ社会で黒人が置かれた状況が黒人の文学作品にどのように反映されているかを考える。19世紀以降のできるだけ多様な作家、作品をとりあげ、時代背景とテーマを検討する。

【講義計画】 毎週一篇のエッセイ、短編、詩をよみ、発表、討論、論議の形式で授業をすすめる。

【評価方法】 授業への出席、討論への貢献、レポート、期末試験を総合的に評価する。

【テキスト】 Richard Wright. 1993 *Uncle Tom's Children* Harper Perennial. 他プリント。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31821	アメリカの政治1-1	選	春学期	2	3・4	岩野 一郎
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 『アメリカの大統領—その権限と役割』

【講義内容】 わが国と最も重要な二国間関係を持っているアメリカ合衆国の政治について、歴史的、ないしはトピカルな視点を持って考察を加えていくのが主たる目的である。アメリカの政治の枠組みである連邦制度の成立を、歴史的に考察し、それが憲法にどのように盛り込まれているかを眺め、次いで、行政部（大統領制）・立法部（連邦議会）・司法部（連邦司法制度）を概観する。政党・圧力団体・選挙といった政治機関や制度、また、マスコミ、世論などにも言及する。

【講義計画】 今学期は行政部を中心に講義をする。まず合衆国憲法の制定に至る過程、憲法に盛り込まれた連邦制の下での大統領制の確立の過程を検証する。次いで大統領制の歴史的な展開をワシントンから現代まで論ずる。

続いて合衆国憲法第2条に書かれている大統領の役割と諸権限—行政部の首長、国家元首、最高司令官、主任立法官、主任外交官などを説明する。

それに引き続くセクションでは大統領が憲法に書かれてはいない役割をも担っていることなど、大統領

のリーダーシップに関連したことがらにも触れていきたい。

【評価方法】 期末に実施される筆記試験が評価に最も重要な比率を占めるが、学期中に小レポートを課す予定であり、これらを総合して評価したい。クラスでの討論参加なども考慮したい。

【テキスト】 五十嵐他編『アメリカの社会と政治』 有斐閣 1995年
阿部斉、久保文明『現代アメリカの政治』 放送大学教育振興会 1997年
他に適宜プリントを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31831	アメリカの外交1-1	選	春学期	2	3・4	宮川 佳三	
他の科目との関連	国際関係論の基礎B					他学科履修	可

【副題】 世界システムとアメリカ外交：20世紀アメリカ帝国の形成と崩壊

【講義内容】 1989～1991の数年の間の冷戦終焉の激動は、国際政治・経済の環境の大きな変化をもたらした。この大変化からアメリカも自由ではなかった。冷戦終焉はアメリカ外交の成功とは単純に言いかねる。「唯一の超大国」とは言われるものの、アメリカの影響力の低下は否定できない。20世紀末に向かって世界システムに大幅な変化が起こっている。多極化した世界におけるアメリカの役割は何処にあるのか。国際政治場でのアメリカの在り様を「歴史的」に考えることにする。アメリカの対日本関係をも常に意識して講義する。

【講義計画】 アメリカの膨張主義が帝国主義の生き方を不可避としたとの認識に基づいて、アメリカ帝国主義の形成と生活・在り様を、経済的に、政治的に、国内の社会構造の面で、更に政策決定過程で働いた諸要素の観点から、アメリカ外交を考察し、最後にアメリカのヘゲモニーの崩壊を検証し、多極化した世界のアメリカ外交の役割を取り上げ、考える。冷戦後の時代の日米関係の在り様が、特に安全保障の問題を議論することで、問われているので、この問題をもケース・スタディとして考えたい。

英文の論文をテキストとして使用し、講義を中心に授業を展開するが、学生による参加の機会を多く作りたい。映像・音声ソフトを必要に応じて使用する。

【評価方法】 レポートorブック・リビュー一点、定期試験、出席に基づき評価を出す。

【テキスト】 アメリカ外交・国際政治・経済に関する英文論文・資料、新聞・雑誌の論説・記事（日本語・英語）

【その他】

参考図書

有賀貞他編『概説アメリカ外交史』（有斐閣）
木下尚一・有賀貞他編『史料が語るアメリカ』（有斐閣）
細谷千博編『日米関係史』（有斐閣）
細谷千博編『日米関係通史』（東大出版会）
ジョージ・ケナン著『アメリカ外交50年』（岩波書店）
ウィリアム・ウィリアムズ著『アメリカ外交の悲劇』（御茶の水書房）
ロバート・ダレック著『20世紀のアメリカ外交』（多賀出版）
トーマス・マコーミック著『パクス・アメリカーナの50年』（東京創元社）
ヘンリー・キッシンジャー著『外交』（上・下）（日本経済新聞社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31836	アメリカの外交2-1	選	春学期	2	3・4	藤本 博	
他の科目との関連	「アメリカの外交2-2」も履修することが望ましい					他学科履修	可

【副題】 「冷戦の時代」における国際関係とアメリカ合衆国

【講義内容】 20世紀は「アメリカの世紀」と言われることが多い。本講義では、主として第二次世界大戦後のアメリカ外交の展開を跡付け、「アメリカの世紀」の特徴を検討してみる。具体的には、第二次世界大戦後長らく続いた「冷戦の時代」を中心に「パクス・アメリカーナ」の形成・展開・変容を問題にする。また、「冷戦

終焉」後のアメリカ外交の変遷についても言及しながら、21世紀におけるアメリカ外交の課題についても考えてみたい。

- 【講義計画】 以下の内容に即して講義を進める
1. アメリカの戦後世界秩序構想と第二次世界大戦の終結
 2. 「冷戦」の起源と「バクス・アメリカーナ」の構築
 3. 「脱植民地化」の胎動と「冷戦」の影
 4. 朝鮮戦争と「冷戦」の軍事化
 5. アイゼンハワー外交の展開—米ソ核軍拡競争の進展
 6. 「冷戦」体制の変容と「バクス・アメリカーナ」の動揺—「ベルリンの壁」、キューバ危機、ヴェトナム戦争
 7. 「デタント」外交と「バクス・アメリカーナ」の再編
 8. 「冷戦終焉」後の世界とアメリカ外交
 9. 21世紀におけるアメリカ外交の課題—「冷戦の時代」の遺産と教訓

【評価方法】 随時課す予定の小レポートならびに学期末試験の結果を中心に評価する。

【テキスト】 第一回目の講義時に指示する。

【その他】 [参考文献]
藤本 博「第二次世界大戦後のアメリカ外交」野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房、1998年）所収

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31837	アメリカの外交 2 - 2	選	秋学期	2	3・4	藤本 博	
他の科目との関連	「アメリカの外交 2 - 1」も履修することが望ましい					他学科履修	可

【副題】 アメリカ合衆国とヴェトナム戦争

【講義内容】 ヴェトナム戦争は、アメリカ合衆国側から見れば、米軍戦闘部隊派遣に限っても8年間（1965～73年）に及ぶ軍事介入を行った戦争であり、「アメリカの最も長い戦争」であった。ヴェトナムにおける軍事介入はアメリカの冷戦外交の帰結であったがゆえに、その軍事介入の挫折は、アメリカの冷戦外交の再検討を迫ると同時に、アメリカ的価値観への疑念を国内に広めることにもなった。また、「ヴェトナム戦争後」においても、アメリカの対外介入のあり方に大きな影をおとしている。

本講義では、アメリカ合衆国にとってこのような歴史的意味をもつヴェトナム戦争をとりあげ、アメリカ外交の展開を中心に据えながら、「ヴェトナム戦争の時代」を考察し、アメリカ理解への一助としたい。講義においては、ヴェトナム戦争がアメリカ社会に及ぼした影響、アメリカ（人）の戦争観、アメリカにおけるヴェトナム戦争の遺産などの諸問題についても考えてみる予定である。

- 【講義計画】 以下の内容に即して講義を進める
1. アメリカ合衆国にとってのヴェトナム戦争
 2. 「冷戦」体制の形成・確立とアメリカの直接介入、1945-1960年
 3. ケネディ政権とヴェトナム、1961-63年
 4. 「アメリカへの戦争」への道と戦争の実態、1963-1967年
 5. アメリカの戦争政策の挫折、1967-1968年
 6. 「冷戦」体制の再編とヴェトナム戦争終結への道、1969-75年
 7. 「ヴェトナム症候群」と「ヴェトナム戦後」のアメリカ外交
 8. ヴェトナム戦争の遺産と今日のアメリカ合衆国

【評価方法】 随時課す予定の小レポートならびに学期末試験の結果を中心に評価する。

【テキスト】 草間秀三郎・藤本 博共編『21世紀国際関係論』（南窓社、2000年）他に、講義資料集を作成し、履修者に配布する予定である。

【その他】 受講の初期の段階で、以下の参考文献と映画を参考に、ヴェトナム戦争に対する自分なりのイメージを持つよう心がけてほしい。

《参考文献》

- ・デイビット・ハルバースタム『ベスト&ブライティスト』（朝日文庫、1999年）
- ・生井英考『ジャングル・クルーズにうってつけの日—ヴェトナム戦争の文化とイメージ』（ちくま学芸文庫、1993年）

《映画》 『7月4日に生まれて』、『プラトーン』など。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31841	アメリカの経済1-1	選	春学期	2	3・4	西村 貞雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 アメリカ経済の発展と変容

【講義内容】 20世紀のアメリカ経済を中心にマクロ経済的な発展を概説する。アメリカ経済は元来自由な市場を通じた競争を望ましいものとする価値観が強い。しかし19世紀末から20世紀にかけての独占の問題と1929年に始まった大恐慌を通じて、政府の経済への関与は飛躍的に高まり、アメリカ経済は大きく変容した。しかし、今日でも経済的自由主義は非常に強く、第二次大戦後も政府の経済関与をできるだけ押さえようとする考え方とニューディール以来の政府を通じて経済の誘導を主張する考え方の対立が、マクロ経済の流れを大きく規定してきた。

「アメリカ経済1」ではこのような視点から経済体制あるいはマクロ経済の動きを歴史的な流れに沿って素描する。ただし、歴史的な細かな事実には余りこだわらず、全体の流れをつかむようにしたい。講義の主たる対象は第二次大戦後のアメリカ経済である。

本講義は「アメリカの経済1-2」と補完的な関係にある。後期の「アメリカ経済1-2」を履修する事が望ましい。

【講義計画】 以下のような講義を予定している。予定の若干の変更はありうる。

1. アメリカ経済発展の基礎－市場経済の役割
2. 19世紀の経済発展と独占の問題
3. 大恐慌とニューディール
4. 戦後の国際経済体制とアメリカ経済
5. ニューエコノミクスと「偉大な社会」計画
6. 70年代の経済的混乱－インフレと失業
7. レーガノミクス
8. 90年代の米国経済－素描

【評価方法】 定期試験の成績により評価。

【テキスト】 教科書は指定せず、講義ではプリントを配布しながら授業を進める予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31842	アメリカの経済1-2	選	秋学期	2	3・4	西村 貞雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 現代アメリカ経済の問題

【講義内容】 現代のアメリカ経済を問題毎に取り上げて詳しく論じる。前期の「アメリカ経済1-1」では歴史的な流れに沿って説明をしたが、この講義では問題を経済学的に分析して行きたい。本講義は「アメリカ経済1-1」と補完的な関係にある。前期の「アメリカ経済1-1」を履修する事が望ましい。

【講義計画】 以下のような講義を予定している。

1. インフレと失業
2. 生産性上昇率と停滞
3. 所得分配の不平等化
4. 財政赤字と財政構造
5. 連邦準備制度と金融政策
6. ドルと貿易赤字
7. アメリカ経済の復活－New Economy?

【評価方法】 定期試験の成績により評価。

【テキスト】 教科書は使用せず、講義ではプリントを配布しながら授業を進める予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31851	アメリカの歴史	選	春学期	2	3・4	川島 正樹
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 市民権運動

【講義内容】 現在のアメリカ合衆国（以下、「アメリカ」と略記）は他国の「非民主主義的行為」に対して軍事制裁をも辞さない、自由と平等といった普遍的価値観を重視する国と思われています。ですから、第二次大戦後も長らく国内の南部に少し前の南アフリカ共和国のアパルトヘイトとあまり変わらない人種差別体制を持つ杭だった事実に関しては、キング牧師の「私には夢がある」演説を高校の英語の時間に学んだ学生諸君でさえ、にわかには信じ難かったにちがいません。この授業では適宜ビデオ教材も利用しながら、市民権運動の前半局面（第二次大戦後から1966年まで）の歴史を概観し、より困難な課題に突き進む第二局面を垣間見ていきます。受講生は質疑応答など、積極的な参加を要請されます。

【講義計画】 次のような要領で授業を進める予定です。（ ）内の数字は予定授業回数を表します。

1. はじめに：ジムクロー（＝人種差別）体制の起源と動揺の文脈（1）
2. 第二次大戦後のジムクロー体制の動揺とモントゴメリー運動の意義（2）
3. リトルロック事件と教育の人種統合の行方（2）
4. 学生達の決起のインパクト（2）
5. バーミングハム闘争と「私には夢がある」演説（2）
6. 選挙権をめぐる闘いと「勝利」後の苦難（3）

【評価方法】 授業中の小テスト（3回実施）、および期末レポート（小テスト2回以上受験者のみに提出資格有り）。さらに授業中の意見発表を加点する。

【テキスト】 特に指定しませんが、参考書として次の書物を強くお勧めします。
洋書

Henry Hampton and Steve Fayer, eds., *Voices from Freedom: An Oral History of the Civil Rights Movement from the 1950s through the 1980s*(New York: Bantam Books, 1990)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31861	アメリカ学特殊研究	選	秋学期	2	3・4	川島 正樹
他の科目との関連	春学期の「アメリカの歴史」を受講しておくことを強く希望する					他学科履修可

【副題】 アメリカ合衆国北部における「人種」差別

【講義内容】 独立革命後に奴隷制が廃止され、法律による人種隔離制度も、遅くとも南北戦争（1861～1865年）後にはなくなったアメリカ合衆国の北部では、南部に比べて「人種」偏見やそれが制度化された差別がなかったと言っただけでよいのでしょうか。キング牧師の運動は南部で「法的平等」という一応の「勝利」を得た後に、なぜ北部の代表的都市であるシカゴの闘争で事実上の挫折を余儀なくされたのでしょうか。独立革命の発火点となり、かつて奴隷制廃止運動の拠点となり、新しくは「リベラル派」ケネディ兄弟の故郷でもあるボストンで、なぜに白人住民は「バス輸送」による「人種統合教育」の裁判所命令に、暴力的なものを含む強い抵抗を示したのでしょうか。リンドン・B・ジョンソン大統領の「貧困との戦争」によっても、北部を主とした大都市中心部の、長期にわたって就労意欲さえ喪失してしまっていると言われる「アンダークラス」の苦境は改善されないばかりか、むしろ深まっていますが、それは彼ら／彼女らの「貧困の文化」、すなわち保守派が言うところの「自己責任」に帰せられるべき問題なのでしょうか。それとも新たな「人種」差別なのでしょうか。

この授業では、ビデオ教材なども使いながら、主にアメリカ合衆国の北部都市に焦点を当てて、植民地時代から現在に至るまでの人種の偏見の根強さを跡付けることから出発し、第一次大戦を契機とし第二次

大戦後に本格化する南部黒人の北部都市への移動が刺激した人種偏見に基づく白人住民の反動的地域運動、戦後リベラリズムの旗手としての労働運動の限界性、地方自治体のみならず連邦政府の責任、製造業の衰退と産業のサービス化さらには経済のグローバル化といった構造変化のインパクトなどの諸要因を検討し、公共政策による社会正義の実現を推進すると同時にそれを阻む側の論拠ともなってきた個人主義や地方分権への信念に基づくアメリカ民主主義のはらむ本質的問題にまで迫りたいと思います。

【講義計画】 次のような要領で授業を進める予定です。() 内の数字は予定授業回数を表します。

1. はじめに——北部で再定義され続けてきた「人種」(1)
2. 「勝利」後のキング牧師の苦難と「偉大な社会」構想の挫折(2)
3. 居住区隔離をめぐる政府の責任(1)
4. 事例研究(1)：デトロイト(4)
5. 事例研究(2) アファーマティヴ・アクションと都心部「アンダークラス」(4)
7. まとめ(1)

【評価方法】 授業中の小テスト(3回実施)、および期末レポート(小テスト2回以上受験者のみに提出資格有り)。さらに授業中の意見発表を加点。

【テキスト】 ①Thomas J. Sgrue, *The Origins of the Urban Crisis: Race and Inequality in Postwar Detroit* (Princeton U. P., 1986)の邦訳(明石書店、2001年刊予定、価格未定)。
②テキスト：ウィリアム・J・ウィルソン『アメリカ大都市の差別と貧困』(明石書店、定価4800円)。(②もそうですが、①の価格も高くなりそうです。担当者は心苦しく思っておりますが、受講生には今日の学術出版状況を配慮の上、ご容赦頂きたいと思います。)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31865	国際経済学1-1	選	春学期	2	3・4	西村 貞雄
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 国際貿易と通商政策

【講義内容】 戦後国際経済関係はとみに緊密化し、最近では日々の経済問題も直接あるいは間接に国際経済にかかわっている。ところが、国際経済の分野はあらゆる人々が議論をしながら、同時に極めて基本的な点において誤った理解が流布している分野でもある。多くのもっともらしいが誤った議論に振り回されずに、問題を論理的に把握するためには、国際経済学の基本的な考え方を正しく理解する事が必要である。
国際経済学は一般に貿易や通商政策に関する分野と為替レート・国際収支などをあつかう国際マクロ経済学と呼ばれる分野に大別される。「国際経済学1-1」では、貿易と通商政策を中心に議論する。国際経済の歴史的発展を素描しながら、それを説明する国際経済学の理論を講義するというやり方で進めたい。

【講義計画】 以下のような講義を予定している。予定の若干の変更はありうる。

1. 比較優位と国際分業の進展
2. 貿易の現状と新しい貿易理論
3. 通商政策の理論と政治経済学
4. 国際貿易体制の発展
5. 「国際競争力」論争

【評価方法】 定期試験および(レポートを課した場合には)レポートの成績により評価。

【テキスト】 教科書は指定せず、講義ではプリントを配布しながら授業を進める予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31866	国際経済学1-2	選	秋学期	2	3・4	西村 貞雄
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 国際金融入門と国際経済問題

【講義内容】 国際経済学は一般に貿易や通商政策に関する分野と為替レート・国際収支などをあつかう国際金融あるいは国際マクロ経済学と呼ばれる分野に大別される。国際経済学1-2では国際金融に関する入門的講義を行う。金融的な側面に関しては余り技術的な細部には入らず、戦後の国際マクロ経済の歴史を説明しながら、トピックについての理論的な説明を加えていきたい。

本講義を履修するためには、「経済学研究の基礎A・B」の知識が必要である。また本講義は「国際経済学1-1」と補完的な関係にある。「国際経済学1-1」を履修している事が望ましい。

【講義計画】 以下のような講義を予定している。予定の若干の変更はありうる。

1. 国際金融の基礎
2. 戦後の固定為替レート制度下の国際経済
3. 変動為替レートの経験
4. 現代の国際経済上の諸問題
 - (a) EUなど経済統合への動き
 - (b) アジア通貨危機
 - (c) その他

【評価方法】 定期試験および（レポートを課した場合には）レポートの成績により評価。

【テキスト】 教科書としては指定せず、講義ではプリントを配布しながら授業を進める予定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
31875	国際政治学1-1	選	春学期	2	3・4	守屋 純	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 前期の講義では、主として現在の国際政治・経済体制の成立の事情を取り扱う。そして冷戦時代の諸問題についてもふれる予定。

【講義計画】

- I. 第二次世界大戦と戦後体制の成立
- II. 戦後体制の制度面と現実面での運用のずれ
- III. 冷戦の発生と激化
- IV. 冷戦体制とは

以上の各項目を3回ずつ。

【評価方法】 平常点（出席重視）30%
試験（筆記）70%

【テキスト】 高橋和夫『現代の国際政治』放送大学教育振興会 1996年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
31876	国際政治学1-2	選	秋学期	2	3・4	守屋 純	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 前期に引き続き後期では冷戦体制の崩壊と、冷戦後の世界情勢分析、および現在の問題について扱う。

【講義計画】

- I. 冷戦体制の崩壊
- II. 第三世界の諸問題
- III. 冷戦の負の遺産
- IV. 今後の世界政治・経済の展望

【評価方法】 平常点（出席重視）30%
試験（筆記）70%

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
31877	国際政治学 2 - 1	選	春学期	2	3・4	LIM Robyn J.
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 The causes of international conflict

【講義内容】 This course, which will be taught only in English, will examine some of the major themes in international politics using an historical approach. Special reference will be made to how different theories can illuminate the security issues facing Japan

【講義計画】
 week 1 : The realist and liberal approaches
 week 2 : Moral dimensions of conflict
 week 3 : The concept of the balance of power
 week 4 : The causes of conflict
 week 5 : Origins of The First World War
 week 6 : Hopes for collective security
 week 7 : Arms control: Washington agreements
 week 8 : Origins of World War II : Europe
 week 9 : Origins of World War II : Asia
 week 10 : Origins of The Cold War: Europe
 week 11 : Origins of The Cold War: Asia
 week 12 : Collective security: The United Nations
 week 13 : Japan and international conflict theory

【評価方法】 Assessment will be on the basis of two short reports. Students can choose a topic that interests them. Reports will be in English only.

【テキスト】 Joseph S. NYE, Jr. ed., Understanding international conflicts: an introduction to theory and history (3rd Ed.) Harpercollins, New York, 2000.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
31878	国際政治学 2 - 2	選	秋学期	2	3・4	LIM Robyn J.
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 The resolution of conflict

【講義内容】 This course, which will be taught only in English, will examine how major conflicts have been resolved in the post war period. Special reference will be made to what this could mean for Japan.

【講義計画】
 week 1 : American containment of the USSR
 week 2 : The origins of the Korean War
 week 3 : Regional conflicts: Vietnam
 week 4 : Regional conflicts: The Middle East
 week 5 : Regional conflicts: South Asia
 week 6 : The 1991 Gulf War
 week 7 : Why did the USSR lose The Cold War
 week 8 : Arms control and The Cold war
 week 9 : The future of nuclear weapons
 week 10 : Economic interdependence, Europe and Asia
 week 11 : Development of international law
 week 12 : Managing the rise of China

【評価方法】 Assessment will be on the basis of two short reports in English. Students may choose topics that interest them.

【テキスト】 Joseph S. Nye, Jr. ed., Understanding international conflicts: An introduction to theory and history (3rd Ed, Harpercollins, New York, 2000.)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31883	国際政治史2-1	選	春学期	2	3・4	原 不二夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 日本・東南アジア関係史－マレーシアを中心に

【講義内容】 明治以降「大東亜戦争」までの日本と東南アジアとの民衆段階での関係がどのようなものだったかを、マレーシアを中心に見る。明治初期に東南アジアに渡った日本人といえば「からゆきさん」ばかりが有名だが、ここではそのような歪みを正したい。
日本の経済発展につれて南方関係者の求める日本人進出形態が変容し、またそれに伴って彼らの東南アジア人観が変遷した点にも触れる。
移民を送り出す日本側の論理ばかりでなく、受入れを必要とした現地当局側の論理も検討する。さらに、日本の政策（戦争を含む）は移民に何をもたらしたか、移民は地元住民とはどのような関係にあったか、にも論及する。

【講義計画】

- 1 琉球王国とマラッカ王国。日本人会と日本人墓地
- 2 「植民協会」と北ボルネオ（サバ）買収案
- 3 1890年代の北ボルネオ移民
- 4 1890年代のシンガポールへの漁業移民、フィリピンへの移民
- 5 石原哲之介（七宝町出身）と「創業移民」（1）
- 6 石原哲之介（七宝町出身）と「創業移民」（2）
- 7 タイ、インドネシアへの移民
- 8 1910年代のゴム園労働者、1920年代の小農移民
- 9 1930年代の農業移民（1）カメロン高原
- 10 1930年代の農業移民（2）サラワク
- 11 1930年代の農業移民（3）タワウ（サバ）
- 12 移民と「大東亜戦争」

【評価方法】 レポート

【テキスト】 原『英領マラヤの日本人』アジア経済研究所 1986年
原『忘れられた南洋移民』アジア経済研究所 1987年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31884	国際政治史2-2	選	秋学期	2	3・4	原 不二夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 日本・東南アジア関係史－「大東亜戦争」と東南アジア

【講義内容】 「大東亜戦争」によってほぼ東南アジア全域を支配下においた日本が、そこでどのような施策を行ったか、それは政治・経済・社会構造をどのように変え、戦後にどのような影響を及ぼしたかを、主にマレーシア、シンガポールについて見る。食料問題、労働者問題、抗日闘争など共通の重要問題については、他国の状況についても触れる。
日本はなぜ戦争を始めたか、戦後の各国の独立は日本の「解放戦争」の所産か、といった点についても、事実を挙げてできるだけ客観的に論評したい。

- 【講義計画】
- 1 日本・中国・華僑・抗日運動
 - 2 開戦への道－「アジアの解放」「資源確保」
 - 3 政治政策－民族運動との関係（1）
 - 4 政治政策－民族運動との関係（2）
 - 5 経済政策－戦前の経済構造と「食料自給」
 - 6 教育政策
 - 7 労務者
 - 8 抗日闘争（1）タイ・インドネシア
 - 9 抗日闘争（2）フィリピン
 - 10 抗日闘争（3）マラヤ
 - 11 抗日闘争（4）北ボルネオ
 - 12 戦争は何をもたらしたか

【評価方法】 レポート

【テキスト】 倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』早大出版部 1997年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31885	国際機構論	選	春学期	2	3・4	宮川 佳三
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 世界平和のための国際機構・機関

【講義内容】 今日の世界には実に多数の国際機構・機関が存在し、そして、その数が急速に増加しつつある。それらの機構・組織・機関の成立の仕方や性格が以前のそれらと比べて異なっている。国際機構の構想は、世界の平和の確保のためのものとしてのものであった。平和のための思想の成長・発展の中で生まれた国際機構・組織・機関は時の流れの中で、更に多くの性格・目的を持った機構・組織・機関を付け加えている。国際社会の変化に伴ない、公的な国際機構・組織・機関以上に民間組織（NGO）の活動の場が増え、かつ求められる時代になりつつある。

本講座はいくつかの代表的な国際機構・組織・機関の発展の歴史的背景と現状を概観し、21世紀の国際関係のあり方と国際機構・組織・機関の役割を考える機会を提供したい。

【講義計画】 国際機構・組織・機関という言葉は多義的に用いられていて、広義には、国際的に活動する団体という意味で、例えば、国連のような政府間組織の他に、民間の国際的非営利団体であるNGO、民間の国際的営利団体である多国籍企業、国連開発計画（UNDP）や国際児童基金（UNICEF）といった国連の補助機関、IMF、世界銀行、GATT、WTOといった経済関係の機関、ASEAN、NATO、WTO、OAS、EUといった地域的機関がある。国際組織は、その設立の基盤や活動の目的・方法を異にする機構を一括に含めていて、実に多様である。

こうした多様な機構・組織・機関の一部を、その発展の歴史的背景、目的、成果を概説し、そうした機構・組織・機関の必要性・あるべき姿を見直したい。

毎日の新聞報道・テレビ報道に注意を向けることが求められる。小テストをする。

【評価方法】 レポートorブック・リヴュー一点、定期試験、小テスト、出席に基づき評価を出す。

【テキスト】 エマニエル・カント『永遠平和のために』（岩波文庫）
横田喜三郎『国際組織の発展』（国際書院）
横田洋三編著『国際機構入門』（国際書院）

【その他】 参考図書
大芝 亮著『国際組織の政治経済学』（有斐閣）
松本三郎他著『テキストブック国際政治』（有斐閣）
横田洋三著『国連法』（東大出版会）
明石康著『国際連合』（岩波新書）
渡部経彦著『国際経済の政治学』（岩波新書）
中山和久著『ILO条約と日本』（岩波新書）
横田洋三編著『国際機構論』（国際書院）
渡部茂己著『国際機構の機能と組織』（国際書院）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31891 31892	国際法 1 - 1・1 - 2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	岡田 泉	
他の科目との関連	1 - 1、1 - 2 は同一学年でセット履修					他学科履修	不可

【講義内容】 伝統的国際法の歴史的性格をふまえ、また人民の自決権、人権保障、戦争の違法化の3つを基軸とする現代国際法への転換という認識を基本的視点におきながら、今日の国際法の構造をできるだけ正確に把握しようとするのが、本講義の狙いである。本講義で取り扱う範囲は、主として、国際法の内容、国際法と国内法の関係、法源論、条約法、国際法の主体、承認論、外交・領事関係、国家の基本的権利義務、国家領域、国際化地域、海洋法、外国人の地位、人権の国際的保障、国際犯罪である。

国際法の体系的学習は、以上の範囲だけでは完結しない。平和で安定した国際関係を創造し発展させるためのさまざまな国際協力について取り扱う「国際法各論」も受講していただきたい。両方を学ぶことによって初めて国際法の全体像が明確に理解されることになるからである。

【講義計画】 おおむね教科書の構成順にしたがって述べていくが、部分的には順序を構成しなおして説明するところが出てくるであろう。また、教科書の説明と講義での説明だけでは、十分な理解に達しない場合がありうる。(それは必ずしも受講者個人の能力や受講姿勢によるとは限らない。)そのような場合、たとえば学説理論や事例の理解を補うには、講義で指摘する文献資料を自分で読むといった、少しばかりの必要な努力をしていただきたい。さらに、講義中の適切な質問は、受講者の頭脳を活性化させ理解を促進することになるばかりか、講義担当者にとって励みでもあるので、ぜひ試みてほしい。

【評価方法】 春・秋学期の各定期試験の平均点を成績として評価する。春・秋学期いずれかに重点をおいて受験する態度は決して望ましくないので、注意すること。

【テキスト】 『国際法』(第3版)(有斐閣Sシリーズ)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31893 31894	国際法 2 - 1・2 - 2	選	春学期 秋学期	各2	3・4	小畑 郁	
他の科目との関連	2 - 1、2 - 2 は同一学年でセット履修					他学科履修	不可

【副題】 人(自然人・法人)と国際法

【講義内容】 国際法総論においては、現代国際法の構造の枠組みについて知識と議論が提供された。この講義では、それを前提として、人(自然人・法人)の視点から国際法の具体的あり方を検討することにしたい。具体的には、伝統的国際法の下で発展し現代国際法にも基本的には引き継がれている、外国人の地位—国家責任—外交的保護の法制度と、現代国際法の下で発展の著しい人権の国際的保障の法制度とを柱として講義する。

【講義計画】 以下のような順序で講義する予定である。

- 自然人・法人の国際法主体性の問題
- 国籍とその諸機能
- 外国人の地位と国家責任
- 国際的請求の要件
- 人権の国際的保障
- 犯罪の国際化と国際協力

【評価方法】 定期試験による予定

【テキスト】 講義に必携

- ・東信堂、三省堂または有斐閣の条約集
- 参考書
- ・松井芳郎ほか『国際法(第3版)』有斐閣
- ・田畑茂二郎・竹本正幸・松井芳郎ほか編『判例国際法』東信堂
- ・その他適宜指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31895	国際学特殊研究1-1	選	春学期	2	3・4	原 不二夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 華僑の政治文化

【講義内容】 東南アジアにおいて華人社会がいつ頃どのような背景のもとに形成されたか、現在は各国においてどのような立場に置かれているかを概観したあと、孫文の革命運動以降の(中華)民族主義の高まりを検討する。辛亥革命において華僑が果たした役割が最初の大きな課題となる。民族意識の覚醒に最も貢献したのは日本の中国「進出」に伴って中国内外で起きた抗日運動だったから、各国華僑の抗日運動とその意識について詳細に論ずる。抗日運動に手を焼いた日本は、「大東亜戦争」で東南アジアを支配下に置くと、華僑を厳しく弾圧した。日本軍の華僑政策が華僑と華僑社会に何をもたらしたかを、最後に分析する。

- 【講義計画】
- 1 東南アジアにおける華人社会の起源と歴史
 - 2 「猪仔」貿易、清朝の華僑政策
 - 3 各国の華人人口、出身地別構成
 - 4 保皇派の改革運動、孫文の革命運動
 - 5 国民党と華僑
 - 6 抗日運動(1)
 - 7 抗日運動(2)
 - 8 陳嘉庚(Tan Kah Kee)と胡文虎(Aw Boon Haw)
 - 9 東南アジア各国共産党と中国
 - 10 日本の華僑政策
 - 11 「大東亜戦争」と抗日戦争
 - 12 日本軍の支配は華僑社会に何をもたらしたか

【評価方法】 期末レポート

【テキスト】 C.F.Yong, R.B.McKenna “The Kuomintang Movement in British Malaya 1912-1949”
Singapore Univ. Press, 1990

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
31896	国際学特殊研究1-2	選	秋学期	2	3・4	原 不二夫	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 華人の政治文化

【講義内容】 東南アジア華人の中国への帰属意識(中華民族主義)は、戦後の各国における民族運動の高揚の中で転換を迫られる。講義では、まず中国とつながる政治運動にどのようなものがあり、どれほどの規模で展開されたかを見、次いで、いつ、いかなる理由で、どのような過程を経て中国指向が現地指向へと変容したか、つまり華僑はどのようにして華人になったか、を分析する。現地化に重要な役割を果たした教育政策にも触れる。現地での権利獲得を目指す運動を担うのは華人政党だが、今日では華人政党の存在を許さない国が多い。その背景を探るとともに、今日唯一華人政党が残るマレーシアについて、華人政党の機能を検討する。

- 【講義計画】
- 1 戦後の中国派政治組織(1)
 - 2 戦後の中国派政治組織(2)
 - 3 中国派の政治集会
 - 4 華字紙と中国
 - 5 領事館の機能
 - 6 中国政府の華僑政策(1)
 - 7 中国政府の華僑政策(2)
 - 8 教育成策(1)

- 9 華人政党の歴史
- 10 マレーシアの華人政党
- 11 戦後のマラヤ共産党と中国
- 12 華人団体の現状

【評価方法】 レポート

【テキスト】 原編『東南アジア華僑と中国』アジア経済研究所 1993年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31899	国際学特殊研究 2 - 1	選	春学期	2	3・4	LIM Robyn J.
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 Australia in world affairs

【講義内容】 This course, taught only in English, will examine Australia's role in global politics. It will analyse key elements of Australian history, especially its search for security in the Pacific.

【講義計画】
 week 1: Foreign relations, 1901-83
 week 2: From Hawke to Howard, 1983-1998
 week 3: The making of foreign policy
 week 4: Australia and the global economy
 week 5: The politics of international trade
 week 6: Australia and nuclear weapons
 week 7: The United Nations and international security
 week 8: Defence and regional security
 week 9: Secessionism in Australia's region
 week 10: Human rights
 week 11: Foreign aid
 week 12: The global environment
 week 13: Globalisation

【評価方法】 Assessment will be on the basis of two short reports in English. Students may choose topics of special interest.

【テキスト】 To be announced.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
31900	国際学特殊研究 2 - 2	選	秋学期	2	3・4	LIM Robyn J.
他の科目との関連						他学科履修可

【副題】 Australia's alliance with the United States: benefits and costs

【講義内容】 This course, taught in English, will examine Australia's alliance with the United States. Like all alliances, it operates on the basis of shared risk. Along with security benefits come costs and risks. Comparisons will be made with the US Japan alliance

【講義計画】
 week 1: The nature of alliances
 week 2: Australia in World War II
 week 3: Labor in office 1941-1949
 week 4: The liberal government 1949-66
 week 5: The anzus alliance
 week 6: SEATO

week 7: The Vietnam War
week 8: The Guam doctrine and “East of Suez”
week 9: Whitlam experiment
week 10: Defence isolationism ?
week 11: The Fraser government
week 12: The labor government 1983 to 1996
week 13: The future of the alliance

- 【評価方法】 Assessment will be on the basis of two short reports in English. Students may choose topics of special interest.
- 【テキスト】 To be announced.

外 国 語 学 部
イスパニヤ科

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
32201 32202 32205 32206	スペイン語V・VI(会話)(FS)1・2	必	春学期 秋学期	各1	3	PRIETO Paz MONTERO Ascensión
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 El objetivo es llevar a la práctica los conocimientos lingüísticos adquiridos en los niveles anteriores y desarrollar en los/las estudiantes la capacidad de expresarse con fluidez en español.

【講義計画】 Habrá actividades por parejas y en pequeños grupos para reforzar la expresión oral. Otras estarán encaminadas a facilitar la comprensión auditiva.

【評価方法】 Para la evaluación se tendrá en cuenta: la participación activa en las distintas actividades programadas, los resultados de los exámenes y la asistencia a clase.

【テキスト】 FORMULA 3. Libro del estudiante. Editorial SANTILLANA

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
32211 32212 32215 32216	スペイン語V・VI(作文)(FS)1・2	必	春学期 秋学期	各1	3	REY Felisa
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 El objetivo fundamental de este curso es proporcionar a los/las estudiantes la teoría y la práctica requeridas para satisfacer las necesidades básicas de comunicación a través del lenguaje escrito.

【講義計画】 Se hará primero la presentación de modelos de redacción que ilustren una función lingüística determinada. Las cartas, notas, apuntes, noticias de prensa y breves párrafos descriptivos, de opinión, etc. presentados, servirán de guía para redactar textos similares.

【評価方法】 En la evaluación se tendrá en cuenta la asistencia a clase, la realización de las tareas y el resultado de los exámenes.

【テキスト】 FÓRMULA 3: Cuaderno de Actividades. Editorial SANTILLANA.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
32221 32225	スペイン語V・VI(講読)(FS)1	必	春学期 秋学期	各1	3	野 田 隆
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 現代ラテンアメリカ研究講読

【講義内容】 現代ラテンアメリカに関する平易なスペイン語文を訳読暗記し、長い文章も理解出来るよう練習する。長文でも容易に読めるよう、英語の単語に近い語が多出する歴史経済政治分野の文章を主として選ぶ予定。小テストを2～3週ごとに行う。

【評価方法】 出席状況・平常点・小テスト・期末テスト等による総合評価。

【テキスト】 プリント配付。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32222 32226	スペイン語V・VI(講読)(FS)2	必	春学期 秋学期	各1	3	佐竹 謙一
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 現代ラテンアメリカ演劇から一作選んで読んでいきたい。また副読本としてスペインの現代劇も読んでもらう。

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32231 32251	イスパニヤ演習I・II	必	春学期 秋学期	各2	3	木下 登
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 スペインは、セネカ以来今日に至るまで、思想においても多様性とともにより豊かな内容を誇る国である。こうした思想的背景を展望した後で、後半では現代スペインを代表する思想家オルテガ・イ・ガセットに研究的をしばっていく。

【評価方法】 口頭発表およびレポート提出。

【テキスト】 J.L. Abellán, *Historia del pensamiento español, de Séneca a nuestros días*, Espasa, 1996.
その他随時プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32232 32252	イスパニヤ演習I・II	必	春学期 秋学期	各2	3	佐竹 謙一
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 授業の基礎として、M. Defourneaux, *La vida cotidiana en España del Siglo de Oro* を使用し、スペイン黄金世紀の人々の暮らしを概観する。
またこれと平行して、セルバンテスの『ドン・キホーテ』を読み、この作品について何回か説明を行う。議論なども含め、セルバンテスの創作意図を探ること、当時の人々の考え方や生活風習を読みとることが目的である。

【講義計画】 最初の一、二回で演習のすすめ方、文献に関する説明、学期の終わりに提出してもらうレポートなどについて説明する。また必要に応じてプリントも配付し、それについても言及する。

【評価方法】 学年末のタームペーパーおよび授業への参加を重視する。

【テキスト】 プリント。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32234 32254	イスパニヤ演習Ⅰ・Ⅱ	必	春学期 秋学期	各2	3	富野 幹雄
他の科目との関連	現代ラテンアメリカ経済（ブラジル）、ラテンアメリカ経済史（ブラジル）					他学科履修 不可

【副題】 ブラジル社会経済史

【講義内容】 現代ブラジルの抱える最大の問題と言える所得分配の不平等、人種関係の根底に存在する人種差別の実態などを取り扱う予定。授業では、これらの問題に関する文献を読み、基本的知識を吸収した後、各自に課題報告をしてもらう。

【講義計画】 春学期の問題に関連する英文の論文のコピーを読みながら、基本的な知識の吸収に努める。

【評価方法】 レポート提出と課題発表。

【テキスト】 特に指定しない。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32235 32255	イスパニヤ演習Ⅰ・Ⅱ	必	春学期 秋学期	各2	3	遅野井 茂雄
他の科目との関連	「ラテンアメリカの政治・AB」 「時事スペイン語Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修のこと					他学科履修 不可

【副題】 「グローバル化とラテンアメリカ」

【講義内容】 ラテンアメリカ地域に関する専門演習。方法論を学びつつ文化、社会、開発、民主化、民族、ODAなどをテーマに、議論を重ね、国際社会とラテンアメリカについての認識を深める。

【講義計画】 基本文献を読破。各自レジュメを用意して報告し、討論する。
前期はテーマ別のレポート（4000字）、後期は国別のレポートを提出し、夏と冬の合宿において報告会を行う。

【評価方法】 平常点；報告と議論への参加度。レポート。

【テキスト】 主にプリント。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32236 32256	イスパニヤ演習Ⅰ・Ⅱ	必	春学期 秋学期	各2	3	高橋 覚二
他の科目との関連	スペイン語の構造を履修することが望ましい					他学科履修 不可

【講義内容】 スペイン語文法の全体像を概観する。語学をどのような観点から研究しても、土台が固まらなければ、応用には繋げていくことが難しい。三年次の演習では、スペイン語文法の知識を深め、問題意識を持つこと、さらに自分の立場を築き、自分の意見を持てる素地を作ることを目的とする。

【講義計画】 まず二年次生の文法テキストを批判的に眺めることから始める。学生同士で学習内容を深め、時間が許せば、教員の指導のもとに、一年次、二年次生の授業で教えたり、指導をしてもらう。このような体験を通じて、スペイン語文法により詳しく通じ、問題点を意識し、それを研究に繋げて行く。

【評価方法】 授業中の態度、発表、レポートを総合的に判断する。

【テキスト】 まずは二年次生のテキスト。Rafael Seco, *Manual de Gramática Española*

その後は、授業で指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
32237 32257	イスパニア演習Ⅰ・Ⅱ	必	春学期 秋学期	各2	3	安原 毅	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【副 題】 ラテンアメリカの社会開発と貧困対策

【講義内容】 戦後の世界史、ラテンアメリカ史をサーベイした後、特にラテンアメリカ各国の労働問題、農村開発、貧困といった問題について学ぶ。

【講義計画】 テキストを輪読してレジュメを作成し、発表してもらおう。ゼミでの発表に先立ってEメールで各自の報告、意見を交換し合い、それを元に討論をすすめたい。秋学期には英語、スペイン語のテキストも使う。

【評価方法】 ゼミでの報告による。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
32291 32295	英語Ⅴ・Ⅵ（コンテンツリーディング） [西] 1	必	春学期 秋学期	各1	3	VILLEGAS Eufrosina	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

【講義内容】 To improve one's reading ability in foreign language learning, it is important that the learner is exposed to writings of people who use the language well and to the current usage of the language.

In this course students will have the chance to be acquainted with good literature written by international authors. The readings chosen are relevant to the students' experiences and are intellectually stimulating to arouse their curiosity and creativity. They include short stories, excerpts from novels, essays, poetry, magazine and newspaper articles that reflect diverse cultural perspectives.

The students are expected to participate actively in the class discussion of the topics related to the readings and to hand in the home reading reports on time.

【講義計画】 In general, the class will proceed in the following pattern:

1. Prereading
2. Reading of the text
3. Comprehension exercises
4. Vocabulary building activities
5. Discussion or writing of topics related to the readings and students' experiences

【評価方法】 Students' assessment will be based on the active class participation, home reading reports and final examination. Regular attendance is required.

【テキスト】 S. Jorgensen and V. Whiteson, "Personal Themes in Literature," Prentice Hall Regents.
Handouts prepared by the teacher.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
32292 32296	英語Ⅴ・Ⅵ（コンテンツリーディング） [西] 2	必	春学期 秋学期	各1	3	DYCUS David	
他の科目 との関連						他学科 履 修	不可

- 【講義内容】 The goal of this course is to help students improve their general reading ability and especially their ability to understand, assess and communicate to others the information and ideas in the material they read. Reading materials will include structured/guided reading and essays. Reading will be done.
1)in class, using SRA reading laboratory materials and 2)outside of class, using assigned materials. For the assignments outside of class, students will be required to write short reports to show that they have read and understood the material. These reports will be the basis for in-class pair work and discussions.
- 【講義計画】 In each class students will do SRA reading. Following that, students will describe and discuss the reading they did outside of class using the reading report. Forms also done as homework. The homework assignments are very important. Students who do not do them will not pass the course.
- 【評価方法】 The course grade will depend heavily on 1) homework and 2) attendance and participation. People are all expected to do the same amount of work. Students who are absent many times or who do not do the work will have difficulty passing.
- 【テキスト】 1) SRA 3A workbook 2) Across Cultures: A reader for writers
(Both are required)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
32301 32302 32305 32306	スペイン語Ⅶ・Ⅷ(会話)(FS)1・2	必	春学期 秋学期	各1	4	CÁRDENAS Abel
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 CONVERSACION VII Y VIII

【講義内容】 El objetivo principal de estas clases es el desarrollar en los alumnos la competencia comunicativa para expresarse oralmente en la lengua española de una forma efectiva. Todas las sesiones de clase requieren de la participación activa de los estudiantes en conversaciones, entrevistas, discusiones, debates y proyectos en parejas y grupos pequeños. Las actividades se basan en la exploración de temas de interés común para los miembros de la clase, y por lo tanto, al principio se aplicará una encuesta para que los estudiantes determinen aquellas áreas temáticas que sean relevantes para la mayoría. Entre los temas que en años anteriores han escogido los estudiantes encontramos los siguientes:

【講義計画】	Las experiencias personales La gente y la cultura de otros países La personalidad La situación laboral en Japón La estereotipos culturales Los sueños El noviazgo y el matrimonio Los planes para el futuro La universidad Las noticias El cine El crimen	Las comidas de los países de habla hispana La búsqueda del empleo ideal El arte La gente y la cultura de Japón La educación Los problemas actuales Las vacaciones Las creencias y los mitos Los medios de comunicación La naturaleza El tiempo libre Los cambios a través del tiempo
--------	--	---

【評価方法】 La evaluación final es la integración de los siguientes aspectos: asistencia, participación activa en clase, tareas y proyectos, exámenes orales y autoevaluación.

【テキスト】 Copias de artículos de revistas y periódicos

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32311 32312 32315 32316	スペイン語Ⅶ・Ⅷ(作文)(FS)1・2	必	春学期 秋学期	各1	4	PRIETO Paz	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【副題】 COMPOSICIÓN-Cuarto curso

【講義内容】 El objetivo de este curso de composición es desarrollar en los estudiantes la capacidad de expresarse por escrito de forma más efectiva.

【講義計画】 En las clases habrá presentación, estudio y análisis de modelos de escritura, a lo que seguirá una aplicación práctica de los mismos.

【評価方法】 Para la evaluación se tendrá en cuenta la entrega puntual de las tareas, la calidad de las mismas y el resultado de los exámenes.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32321 32325	スペイン語Ⅶ・Ⅷ(講読)(FS)1	必	春学期 秋学期	各1	4	木下登	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 現代スペインの代表的文章家たちのエッセイを中心に詳読する。精緻な読解力を身につけることを目標とする。

【講義計画】 スペイン語文読解のための「15の着眼点」を例文をまじえて解説した後で、思想・文化・芸術等のジャンルのエッセイを読む。
授業では、原文の正確な読み取りとより良い日本語訳文の完成を旨として質疑応答を中心に進めたい。
受講生は、西和辞典、西西辞典、またスペイン語で出版された百科事典、思想辞典、文学事典などにもあたり、文意解明に努めること。必ず訳文を書いて持参すること。

【評価方法】 ノートの提出と筆記試験等に出席を加味して評加。

【テキスト】 José Siles Artés y Jesús Sánchez Maza, “Curso de Lectura, Conversación y Redacción.” (Nivel Intermedio), SGEL, 1996.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者		
32322 32326	スペイン語Ⅶ・Ⅷ(講読)(FS)2	必	春学期 秋学期	1	4	高橋 覚二		
他の科目との関連	なし						他学科履修	不可

【講義内容】 19世紀のスペイン人劇作家 Juan Eugenio Hartzenbusch の悲恋の劇曲を日本語に訳す。

【講義計画】 春学期、秋学期とも、作品を読む。詳しく訳すので、十分な予習を求めたい。

【評価方法】 授業中の態度と定期試験を総合的に判断する。

【テキスト】 Juan Eugenio Hartzenbusch, *Los amantes de Teruel*

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32331 32351	イスパニヤ演習Ⅲ・Ⅳ	必	春学期 秋学期	各2	4	木下 登
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 学生は各自、リサーチ・ペーパーのテーマを選択し、研究発表を重ねることにより、論文の完成を期するものとする。

【評価方法】 口頭発表およびレポート提出による。

【テキスト】 参考文献等は随時指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32333 32353	イスパニヤ演習Ⅲ・Ⅳ	必	春学期 秋学期	各2	4	芝 修身
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 本演習では、スペイン史について各自が関心を持っているテーマをクラスで口頭発表し、構想を練りながら、卒業論文作成の準備を進めていく。

【講義計画】 上述の演習遂行は次の手順で行う。
 (1) 卒業論文のテーマの決定
 (2) 必要史料の選定
 (3) 発表要領の説明と発表順位の決定
 (4) 口頭発表
 (5) 質疑応答と議論
 (6) 教員による批評と指導

【評価方法】 卒業論文を最大の評価対象とするが、クラスにおける発言と参加態度も考慮に入れる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32336 32356	イスパニヤ演習Ⅲ・Ⅳ	必	春学期 秋学期	各2	4	遅野井 茂雄
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 各自の研究課題を設定し、ゼミでの報告と個別指導を通じて、課題ペーパーの完成を目指す。

【講義計画】 4月末までに基本構想をまとめ、3年生との合同ゼミで発表する。前期は基本文献を読み、報告とディスカッションを続ける。夏休み後の最終報告を経て、12月初めに第一稿、1月初めに第二稿を提出。400字100枚を目標とする。

【評価方法】 平常点、論文及び中間作業による。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32337 32357	イスパニヤ演習Ⅲ・Ⅳ	必	春学期 秋学期	各2	4	富野 幹雄	
他の科目 との関連						他学科 履修	不可

【講義内容】 イスパニヤ演習Ⅱのときに大枠を決めたテーマを収集した資料とつき合せて、より詳細で具体的なものに構成する努力をする。

【講義計画】 Ⅲの授業では、主としてポルトガル語の資料の講読を行い、Ⅳでは学生の研究発表を通じて、リサーチペーパーの最終構成の完成（11月頃）、そして下書きにまで進む。

【評価方法】 レポート、口頭発表、リサーチペーパーを総合的に評価する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32338 32358	イスパニヤ演習Ⅲ・Ⅳ	必	春学期 秋学期	各2	4	安原 毅	
他の科目 との関連						他学科 履修	不可

【講義内容】 ゼミ生各自に、卒業論文作成のための中間発表をしてもらう。4月末までにテーマを定めて文献を集め、7月までにその内容を整理、検討すること。適宜Eメールを使って3、4年生のゼミ生全員に内容を公表してもらう。論文は400字100枚程度とし、合わせてホームページによる資料検索、エクセル等を使った図表の作成も練習してもらいたい。

【評価方法】 論文の中間作業、最終的な水準による。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32601 32603	スペイン語史Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	大岩 勉	
他の科目 との関連						他学科 履修	不可

【講義内容】 「現代スペイン語は、どのような特徴・個性を持った言語なのか」について、特に音韻面から考察する。現代スペイン語の動詞で *sentí, sentiste, sintió, sentimos, sentisteis, sintieron* と3人称で「e>i」と変化していて、不規則動詞だと説明されている。しかし、この「e>i」の変化は、動詞だけでなく総ての品詞に関して見られるスペイン語の音韻変化の一般的な原則に従った規則的な変化である。

【講義計画】 春学期では「母音・子音の変遷」を踏まえて、「動詞変化に見られる規則性」などに焦点を合わせ講義していく。
秋学期には、イベリア半島における各地域の言語状況などの概説と共に、時間が許せばスペイン語成立以降の資料などにも触れたいと思う。

【評価方法】 定期試験の結果と授業時の応答、出席状況などによる総合評価

【テキスト】 プリントにして配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32621 32623	スペイン文学A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	有本 紀明	
他の科目 との関連						他学科 履修	可

- 【副題】 98年世代とその構成員（ガニベット、マエストゥ、アソリン、バロハ、ウナムノ、マチャド、バリエ・イン克蘭・・・）について。
- 【講義内容】 スペインの近・現代史に大きな刻印を残した98年世代について、その歴史的・文化的意義を、特に構成員といわれる人々の作品を通して検証していきたい。
- 【講義計画】
1. スペインの風土と文学
 2. 世紀末から20世紀へ：その社会と文化
 3. 98年世代：その意義と構成員
 4. 作品研究：ガニベット、マエストゥ、アソリン、バロハ、ウナムノ、マチャド、バリエ・イン克蘭
- 【評価方法】 研究発表、期末の試験等で評価する。
- 【テキスト】 『Antología de la generación del 98』 (Agustín M-Alonso López. Santillana, Madrid, 1997) およびプリント。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32625 32627	スペイン文学と社会A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	佐竹 謙一	
他の科目 との関連						他学科 履修	不可

- 【副題】 スペイン・バロック演劇
- 【講義内容】 両学期を通して16世紀後半から17世紀前半にかけてのスペイン・バロック演劇を展望する。劇場の構造や観客の様子なども含めて、当時人気を博したロペ・デ・ベガ、テイルソ・デ・モリーナ、カルデロンの劇作品を中心に、教えや楽しみも含まれた古典演劇の世界を探ってみたい。
また後期には、芝居が大好きだったスペイン国王フェリペ四世の素顔にも言及する。
- 【評価方法】 定期試験
- 【テキスト】 プリント等も含めて、テキストについては授業中に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32631	ラテンアメリカ文学A	選	春学期	2	3・4	宮下 克子	
他の科目 との関連						他学科 履修	不可

- 【講義内容】 18世紀中葉から現在に至るまでのラテンアメリカ文学史の概要を追う。その後、モデルニスモ、《ブーム》前夜にあたる30～50年代の作家達、《ブーム》と呼ばれて世界的な注目を集めた60～70年代の作家達の作品の中から代表的なものを選んで、そのスタイルと内容を検証する。各々の作家のテーマ、表現の特徴を見ながら、ラテンアメリカ文学全体が持つテーマと、その際立った表現方法のパノラマを捉えることを目標とする。
- 【講義計画】
- ・18世紀から現代に至るラテンアメリカ文学の流れに目を通す
 - ・モデルニスモとその代表的な詩人ルーベン・ダリオ
 - ・リカルド・グイラルデス『ドン・セグンド・ソンブラ』
 - ・インディヘニスモの小説。ホルヘ・イカサ『ワンプンゴ』ホセ・マリア・アルゲダス『深い川』

・パブロ・ネルーダの詩

【評価方法】 ・学習に向かう姿勢
・レポート

【テキスト】 ・プリントを用意する

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32633	ラテンアメリカ文学B	選	秋学期	2	3・4	宮下 克子	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 前期に続き、現代ラテンアメリカ文学の代表的な作家とその作品に触れつつ、その全体としての姿を捉えることを目指す。また、ラテンアメリカ文学に特徴的ないくつかの点に注目し、マルケス、フェンテス、コルタサルといった輝かしい《ブーム》の時代を担った作家達の具体的な例を見ながら、それらの点を検証する。

【講義計画】

- ・ホルヘ・ルイス・ボルヘス『伝奇集』『アレフ』
- ・アレホ・カルペンティエール『失われた足跡』『光の世紀』
- ・ファン・ルルフォ『ペドロ・バラモ』
- ・ガルシア・マルケス『百年の孤独』『大佐に手紙はこない』
- ・カルロス・フェンテス『アルテミオ・クルスの死』
- ・カルロス・オネッティ『はかない人生』
- ・エルネスト・サバト『トンネル』
- ・バルガス・リョッサ『ラ・カテドラルでの対話』『都会と犬たち』

【評価方法】 ・学習に向かう姿勢
・レポート

【テキスト】 プリントを用意する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32635 32637	スペイン思想史 スペイン現代思想	選	春学期 秋学期	各2	3・4	木下 登	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 スペインでは、セネカ以来今日に至るまで、思想面においても多様性と共に豊かな内容を誇る国である。その思想史の系譜をローマ帝国治世下時代から、中世、近代に至るまでたどることにより、スペイン思想への接近を図る。

【講義計画】

1. スペイン思想研究入門
2. セネカ
3. 聖イシードロと『語源録』
4. ドミニクス・グンディサリヌスと訳業
5. ラス・カサスとビトリア
6. ルイス・ビーベス
7. 聖女テレジアと十字架の聖ヨハネ
8. ザビエル
9. サンス・デル・リオ
10. ヒネル・デ・ロス・リオス
11. ウナムーノ
12. オルテガ
13. カストロ
14. スビリ

【評価方法】 レポートと筆記試験

【テキスト】 J.L. Abellán, "Historia del Pensamiento español, de Séneca a nuestros días", Madrid, 1996.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32641 32643	スペイン語の構造A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	高橋 覚二
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

【講義内容】 本来の文法は運用面を意識しないものである。この授業では、コミュニケーションの手段としての文法、コミュニケーションのためのスペイン語文法を学習する。

【講義計画】 コミュニケーションのためのスペイン語文法で評価の高い本を教科書として使い、それを理解することを中心に授業を進める。随時各人が発表を行い、レポートを作成する。

【評価方法】 授業中の態度、レポート、発表、試験を総合的に判断する。

【テキスト】 Matte Bonn, *Gramática comunicativa de español*

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32651 32653	ラテンアメリカの政治A・B	選	春学期 秋学期	各2	3・4	遅野井 茂雄
他の科目 との関連						他学科 履修 可

【講義内容】 ラテンアメリカ政治の構造と伝統、変動を整理し、ラテンアメリカの政治世界を把握する。ラテンアメリカ政治を眼を養い、各国別の比較をおこなう。

【講義計画】

ラテンアメリカの政治A

1. 講義概要の説明
2. 政治世界（Ⅰ）：概観
3. 政治世界（Ⅱ）：民族、社会
4. 政治世界（Ⅲ）：政治文化
5. インカ帝国と植民地支配：連続性と断絶
6. 独立期の政治(19世紀)
7. 寡頭支配体制と初期近代化
8. 民衆の登場とポプリスモ
9. メキシコ革命、ボリビア革命
10. ブラジル、アルゼンチン
11. ペルー、コロンビア、中米
12. まとめ

ラテンアメリカの政治B

1. 現代ラテンアメリカ政治の問題群
2. ポプリスモの問題点
3. キューバ革命の衝撃
4. 軍と政治
5. 宗教と政治
6. 開発思想の変遷
7. 開発体制、アジアとの比較
8. 民主化の背景
9. 民主主義の課題
10. アメリカ合衆国とラテンアメリカ
11. 地域協力の動き
12. チリ、ペルー、メキシコ
13. まとめ

【評価方法】 定期試験、授業参加度による

【テキスト】 加茂雄三／選野井茂雄 他 著『ラテンアメリカ』自由国民社1999年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32655	ラテンアメリカ経済史（ブラジル）	選	春学期	2	3・4	富野 幹雄
他の科目との関連	現代ラテンアメリカ経済A（ブラジル）					他学科履修 可

【講義内容】 大航海時代から1930年頃までのブラジルの社会と経済の歴史を概観する。

【講義計画】 秋学期開講予定の「現代ラテンアメリカ経済A（ブラジル）」を履修するための歴史的な基礎知識を与えることを目的としている。

【評価方法】 学年末の筆記試験あるいはレポート。

【テキスト】 『ブラジル研究入門』（晃洋書房）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32657	現代ラテンアメリカ経済A（ブラジル）	選	秋学期	2	3・4	富野 幹雄
他の科目との関連	ラテンアメリカ経済史（ブラジル）					他学科履修 可

【講義内容】 現代ブラジルにおける経済的な諸問題、とくに工業化過程と経済開発計画などに伴う問題点や特色について述べる。

【講義計画】 1930年以降から現在に至る期間のブラジル経済の状況についての基本的な知識を学生が持ち、さらには同地域に対して一層の関心を抱くようになることを期待している。

【評価方法】 学年末の筆記試験あるいはレポート。

【テキスト】 『ブラジル研究入門』（晃洋書房）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32661	国際経済とラテンアメリカ	選	春学期	2	3・4	安原 毅
他の科目との関連						他学科履修 可

【副題】 現代のメキシコ経済を手がかりとした国際マクロ経済学の基礎

【講義内容】 1990年代のメキシコ経済・通貨危機を解説した後、為替レート、金利決定、資本移動といった国際マクロ経済学の基本を学ぶ。担当者が受けもつ「ラテンアメリカの経済政策」に比べて経済学の専門性が一層強いと考えてもらいたい。また予備必修は指定しないが、受講者は経済学の基礎の科目（担当者は不問）を履修していることが望ましい。

【講義計画】

1. メキシコの通貨危機
2. 国際収支表の見方
3. 貯蓄－投資バランス
4. 為替レートと貿易、為替レートの決定

5. 金利と資本移動

【評価方法】 筆記テスト

【テキスト】 コピーを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32663	現代ラテンアメリカ経済B	選	秋学期	2	3・4	安原 毅	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 通貨危機を手がかりとした国際マクロ経済学

【講義内容】 1990年代ラテンアメリカ諸国の通貨危機を解説し、あわせて国際マクロ経済学の理論的方法を学ぶ。内容は春学期の「国際経済とラテンアメリカ」から継続する。

【講義計画】

1. メキシコ、アルゼンチン、ブラジルの通貨危機
2. 為替レート、資本移動の理論
3. マンデル＝フレミング・モデル
4. 通貨アタックの理論

【評価方法】 筆記テスト

【テキスト】 コピーを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32665	ラテンアメリカ特殊研究（先住民の時代から独立メキシコへ）	選	春学期	2	3・4	野田 隆	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 メキシコ国家形成の歴史的背景

【講義内容】 まずメキシコ（メソアメリカ）先住民の歴史を、文明形成期・古典期・新古典期の順に概観する。ついで300年間のスペイン植民地時代を「激動の16世紀」・「安定の17世紀」・「発展の18世紀」に区分しながら論じ、19世紀初頭のメキシコ独立に至る過程をたどる。具体的には、スペイン人征服者による探検・征服・植民、スペイン王室による植民地支配体制の確立、先住民人口の減少、鉱山業と砂糖産業の盛衰、貿易制度、大土地所有制、奴隷制、混血、カトリック教会、などの諸問題を論じる。

【講義計画】 テキストの他、プリント、ビデオを使いながら講義し、受講者による発表も行なう。また、各時代・テーマごとに、小テストを行なう。

【評価方法】 出席・小テスト・発表・筆記試験による総合判定

【テキスト】 プリントと増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』（中公新書、1998年、800円）

【その他】 ビデオの使える教室

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32666	ラテンアメリカ特殊研究 (20世紀ラテンアメリカの歴史と文化)	選	秋学期	2	3・4	野田 隆	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ラテンアメリカ民族主義の諸問題

【講義内容】 メキシコを中心に、20世紀ラテンアメリカのナショナリズム（民族主義）を考えてみたい。具体的には、まず19世紀後半のリベラリズム（自由主義）のもとでの輸出経済の発展を概観し、その矛盾がうみだしたメキシコ革命（1910-20）と壁画運動、1929年の世界大恐慌後のカルデナス政権の諸改革、その後の輸入代替工業化政策の成功、それがやがて行き詰まりネオリベラリズム（新自由主義）へと転換していく過程などを、他のラテンアメリカ諸国とも比較しながら論ずる予定。

【講義計画】 テキストの他、プリント、ビデオを使いながら講義し、受講者による発表も行なう。また、各時代・テーマごとに、小テストを行なう。

【評価方法】 出席・小テスト・発表・筆記試験による総合判定

【テキスト】 プリントと増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』（中公新書、1998年、800円）

【その他】 ビデオの使える教室

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32675	ラテンアメリカの経済政策	選	春学期	2	3・4	安原 毅	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ラテンアメリカ（スペイン語圏）における工業化の歴史

【講義内容】 独立から20世紀に至るまでのラテンアメリカの農業・工業・貿易の構造を解説する。各国の事例よりも理論的把握に重点を置く。また予備必修は特に指定しないが、受講者は経済学の基本的な科目（担当者は不問）を受講していることが望ましい。

【講義計画】

1. 農業と土地所有形態
2. 輸入代替工業化
3. 輸出指向工業化
4. ラテンアメリカ独自の経済理論

【評価方法】 筆記テスト

【テキスト】 コピーを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32677	ラテンアメリカの経済開発	選	秋学期	2	3・4	安原 毅	
他の科目との関連						他学科履修	可

【副題】 ラテンアメリカにおける貧困と所得分配

【講義内容】 現代のラテンアメリカにおける所得分配・再分配政策と貧困問題について解説する。余裕があれば社会開発、人間開発の理論にも言及したい。

- 【講義計画】 1. 経済発展と所得分配の関係
2. 所得分配の計測方法
3. 都市貧困問題、インフォーマル＝セクターについて
4. 人口移動の理論的把握
5. 社会開発、人間開発

【評価方法】 筆記テスト

【テキスト】 コピーを配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32701 32703	ビジネススペイン語の基礎Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	大岩 勉	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 海外との商取引きで使用されているスペイン語は、様々な分野に及び、その内容は多岐にわたる。この授業では、商取引きの場で依然として基本的な存在であり続けている商用書簡の本質についての理解とスペイン語による表現力を確かなものとすることを目標として授業を進めていく。スペイン語を読むことは第二外国語として学んだだけでも結構できるが、イスパニヤ科出身であればスペイン語で文章が書けなければならぬ。スペイン語文章が書けるようになりたいと望んでいる人のみ受講して下さい。

【講義計画】 春学期では以下の内容を扱う。

信用調査に関する説明からオファー、発注と受注、信用状、D/P、D/Aなどについての基本的理解、契約後の輸入手続きに関連する貿易用語の解説を軸に、スペイン語の例文に接することにより「読解力・表現力」の養成を図る。

秋学期は、クレームを中心とする取引き後の処理について説明、扱う例文の量を増やすことにより一層のレベルアップを目指したい。特に後期の授業ではプリントも活用したいが、活用ができるかどうか、すべては予習・復習の分量、内容次第となる。

【評価方法】 定期試験の結果と授業時の応答、出席状況などによる総合評価

【テキスト】 「スペイン語現代貿易通信文」 瓜谷・浦和著 (芸林書房)
「最新貿易スペイン語」 石井著 (芸林書房)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32711 32713	時事スペイン語Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	遅野井 茂雄	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 スペイン語圏の新聞・雑誌記事を読むことにより、時事的な表現に慣れるとともに、ブラクティカルな現代スペイン語の読解能力の向上を目指す。

【講義計画】 時間毎、テーマを考えたホットな内容のものを読んでいく。

【評価方法】 各自トピックスを発掘し、レポートを提出。レポートと、平常点、定期試験から総合的に評価。

【テキスト】 プリント。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32715 32717	スペイン語通訳法Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	小知和 優江	
他の科目との関連						他学科履修	不可

【講義内容】 スペイン語から日本語あるいはその逆を、LLを使用し簡単な文章から始め、時事に関することも、同時通訳をする訓練をする。

【評価方法】 試験、但し日常の練習も重視。

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32721 32723	ポルトガル語研究の基礎Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	3・4	富野 幹雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 スペイン語との差異に注意しながら、ブラジルのポルトガル語文法の基礎を学ぶ。Ⅰの授業では直説法の終わりまでを扱い、Ⅱではその残りの部分を学習する。それゆえ、ⅠとⅡを連続して履修することを前提としている。

【講義計画】 前以って練習問題のプリントを配布するので、意欲的に予習に取り組んでくれることを期待している。

【評価方法】 学年末の筆記試験。

【テキスト】 『スペイン語からポルトガル語へ』（大学書林）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
32725	ポルトガル語比較文法	選	秋学期	2	3・4	富野 幹雄	
他の科目との関連						他学科履修	可

【講義内容】 最初、ブラジルのポルトガル語とポルトガル本国で使われているポルトガル語との比較を、主として音韻の面から行ない、次にポルトガル語とガリシア語の文法を比較研究する予定。

【講義計画】 参加学生にプリント（ポルトガル語あるいはガリシア語）を配布し、各自が分担部分を発表する形の授業としたい。

【評価方法】 提出レポートと授業中の報告を評価する。

【テキスト】 『ポルトガル語からガリシア語へ』（大学書林）。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
32727	ブラジル・ポルトガル文化研究	選	春学期	2	3・4	富野 幹雄
他の科目との関連						他学科履修可

- 【講義内容】 現代ブラジル文化の源流をなすポルトガル文化についての基礎的な知識を出発点として、ブラジルにおける人種関係の理解を深めるために種々の文献の講読をする。
- 【講義計画】 講読だけでなく、履修学生の関心を抱いている課題に応じて、研究報告をしてもらう予定。
- 【評価方法】 レポートと課題報告。
- 【テキスト】 参考文献：『ブラジル研究入門』（晃洋書房）。